TOTO

誤記訂正　＜2020年12月9日＞
P9　120±10の公差削除
P15　クッションに「下記部品は使用しません」を追記

施工説明書

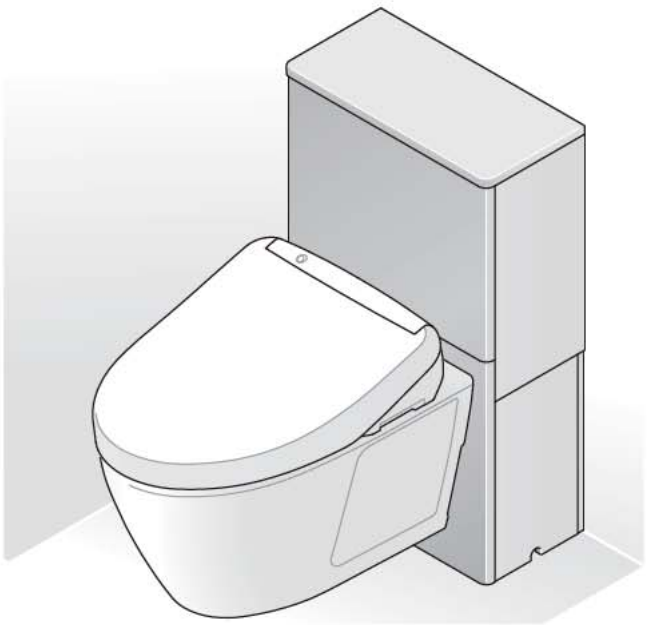
住宅用壁掛トイレ FD

床排水・壁排水

◆“ウォシュレット”はTOTOの登録商標です。

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。
取付後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。本書に記載の寸法の単位はmmです。

本書とあわせて、各部材に付属の説明書やちらしをご確認のうえ、正しく取り付けてください。



商品の確認 2
1. 商品タイプの確認 2
2. 商品の構成 3
情報編 5
1. 安全上のご注意 6
2. 取付前のご注意 8
3. 部品の確認 13
4. 施工ダイジェスト 16
手順編 17

工事店様へ

□試運転で必ず実施してください。

便器洗浄をして水たまり面が低下する場合 ➡ P.37を参照

排水管に曲がりが多かったり、通気が不十分だったりすると、水たまり面が低下する場合があります。
※低下すると汚物付着の原因になります。
水たまり面が低下した場合は、設定変更にて対応してください。

自治体によって洗浄水量の規制がある場合 ➡ P.38を参照

□取扱説明書の最終ページの保証書に、必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡ししてください。
お渡しできない場合は、目立つ場所に置いてください。
□取付後、ウォシュレットの機能、使いかたなどについてお客様にご説明をお願いいたします。
□新築などでお客様に引渡すまでに時間があるときは、電源プラグを抜いておいてください。

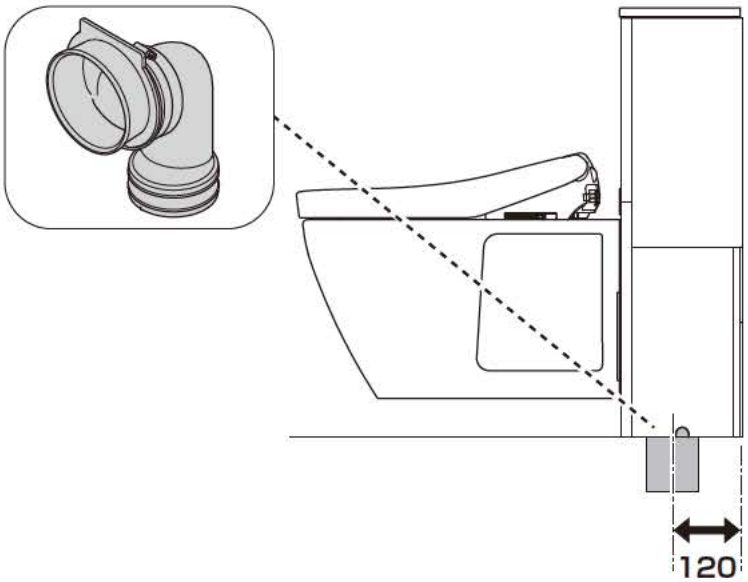
商品タイプの確認

商品タイプにより施工手順が異なります。

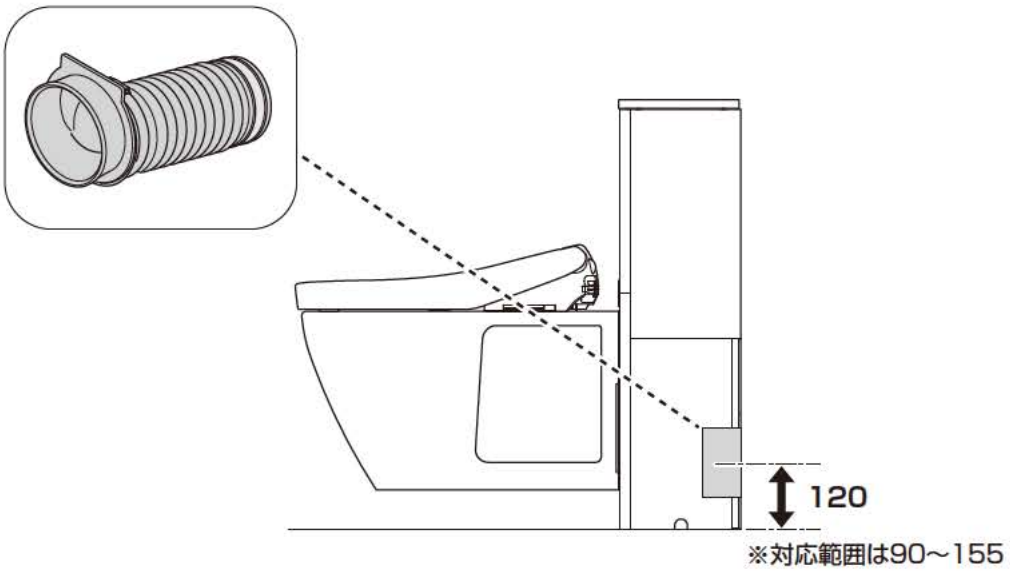
お施主様のお宅は、どのタイプですか？

給排水タイプ

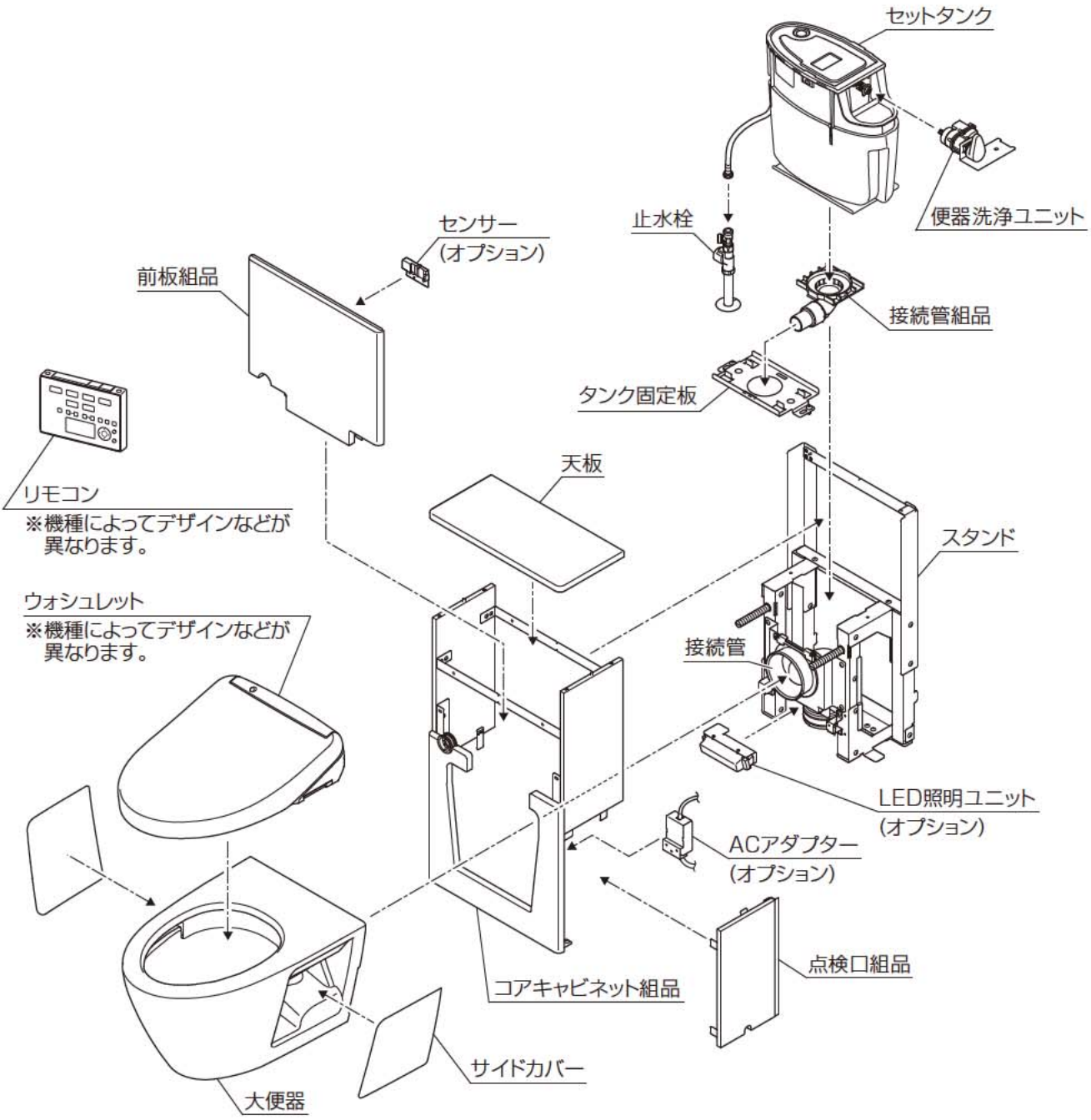
給水新設 / 床排水（排水心 120mm）



給水新設 / 壁排水



商品の構成


セットタンク
便器洗浄ユニット
止水栓
センサー
(オプション)
前板組品
接続管組品
タンク固定板
リモコン
※機種によってデザインなどが
異なります。
天板
スタンド
ウォシュレット
※機種によってデザインなどが
異なります。
接続管
LED照明ユニット
(オプション)
ACアダプター
(オプション)
点検口組品
コアキャビネット組品
サイドカバー
大便器

MEMO

情報編

1. 安全上のご注意 ▶ 6

2. 取付前のご注意 ▶ 8

取付前の確認 8

1 設置寸法 8

2 排水位置 9

3 寒冷地 水抜方式の場合の水抜栓位置 9

4 給水位置 9

5 補強材位置 10

6 電気配線 11

7 幅木 12

8 窓枠など 12

9 必要工具 12

3. 部品の確認 ▶13

4. 施工ダイジェスト ▶16

1.安全上のご注意

安全のために必ずお守りください。

お取付前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容となりますので、必ずお守りください。

●表示と意味はつぎのようになっています。

⚠警告	誤った取り扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性および物的損害※の発生が想定される」内容です。

●お守りいただく内容を絵表示で区分し、説明しています。

⊘	してはいけない「禁止」の内容です。
❗	必ず実行していただく「強制」の内容です。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

⚠警告

分解禁止

修理技術者以外の人は分解したり、修理・改造はしない
火災や感電の原因となります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で、電源プラグにさわらない
感電の原因となります。

水場使用禁止

浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しない
火災や感電の原因となります。商品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがのおそれがあります。

接触禁止

雷が発生しているときは、電源プラグに触れない
感電の原因となります。

禁止

指定する電源（交流100V）以外では使用しない
火災の原因となります。

電源コード・電源プラグが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいままで使用しない
火災や感電の原因となります。

電源コード・電源プラグが破損するようなことをしない
傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない
傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。

ガタついているコンセントは使わない
火災や感電の原因となります。

屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付けない
取り付けが不安定になり、倒れたり落下してけがのおそれがあります。

器具取付用のねじ固定部の床・壁裏には、配管・配線を通さない
火災や感電の原因となります。
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

給水および排水管の真下部にコンセントを設置したり、ウォシュレット用の給水ホースと電源プラグ・コンセントを接触させない
結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない
たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因となります。

水道水および飲用可能な井戸水・地下水以外は使用しない
皮膚の炎症などを起こす原因となります。

アース接続

アース（D種接地）工事がされていることを確認する
アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電する原因となります。
アース工事は、お近くの工事店に依頼してください。

必ず守る

電源プラグは根元まで確実に差し込む
火災や感電の原因となります。

工事完了後、商品の傾きやがたつきがないか確認する
商品が落下したり、外れたりしてけがのおそれがあります。

コンセント位置・電源コードの取り回しは、本説明書に記載された位置・方法・注意事項を厳守する
結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

商品を取り付ける柱・横さん・間柱は腐食などで強度不足でないことを確認する
商品が転倒・落下してけがのおそれがあります。

壁固定ねじ取付位置には、必ず壁裏に補強材を入れる
商品が転倒・落下してけがのおそれがあります。

コンセントは指定の位置に設置する
コンセントに水がかかり、火災・感電の原因となります。

電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く
電源プラグ・コードの傷みによる火災や感電の原因となります。

⚠警告

必ず守る

機器の設置は専門業者が行う
また、電気工事は関連する法令・法規に従って有資格者（電気工事士）が行う
火災や感電の原因となります。水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
商品が破損・落下してけがのおそれがあります。

⚠注意

禁止

止水栓を開けたままで給水フィルターを外さない
水が噴き出し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

商品に強い力や衝撃を与えない
商品が破損・落下してけがをするおそれがあります。
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

電源コードは指定された機器以外に使用しない
機器故障の原因となります。

フレキホースが破損するようなことをしない
傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない
給水ホースが破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

天板の上に乗って作業しない
天板が破損したり落下したりして、けがのおそれがあります。

必ず守る

給水フィルター・給水フィルター付水抜栓を取り付けるときは接続部やフィルターふたを確実に締める
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
※止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください。

工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

商品の取り付け・加工は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する
商品が破損・落下してけがのおそれがあります。

商品の壁への固定が完了するまで、もたれたり、物を載せたりしないよう十分注意する
倒れや落下によりけがのおそれがあります。

凍結による破損の予防を行う
凍結すると商品の一部が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する
取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

給水・排水接続は、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

給水ホースと分岐金具を正しく接続する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

ねじ部の固定は、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する
商品が破損・落下してけがのおそれがあります。

水平器を用いて水平に設置する
天板に置いたものが落下してけがのおそれがあります。

商品周囲のすき間処理は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する
水が浸入して家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

便器の水たまり部を見て、封水が切れていないことを確認する
封水が切れている場合に下水ガスや塩素ガス、硫化水素などによって設備・機器が腐食し、物的損害・傷害の生じる原因となります。

2.取付前のご注意

施工や運搬、清掃時に触れる可能性のある金属類は、陶器と接触しないようにしてください。
金属類が陶器表面をこすり、スジ状の跡が付くおそれがあります。

取付前の確認

1. 取り付けに必要なトイレスペースを確保する
▶P.8「設置寸法」参照

2. 給水取出位置・排水管位置およびコンセント位置が所定の位置であることを確認する
※ウォシュレット用電源コードの長さは約1mです。
コンセントはこの長さに適した所定の位置に設置しているか確認してください。

3. 給水条件
最低必要水圧：0.05MPa(流動時)
最 高 水 圧：0.75MPa(静止時)
給 水 温 度：40℃以下
この圧力範囲で使用してください。

4. スタンド、コアキャビネット組品取付用のねじ固定部周辺の床・壁裏には配管・配線が通らないようにする

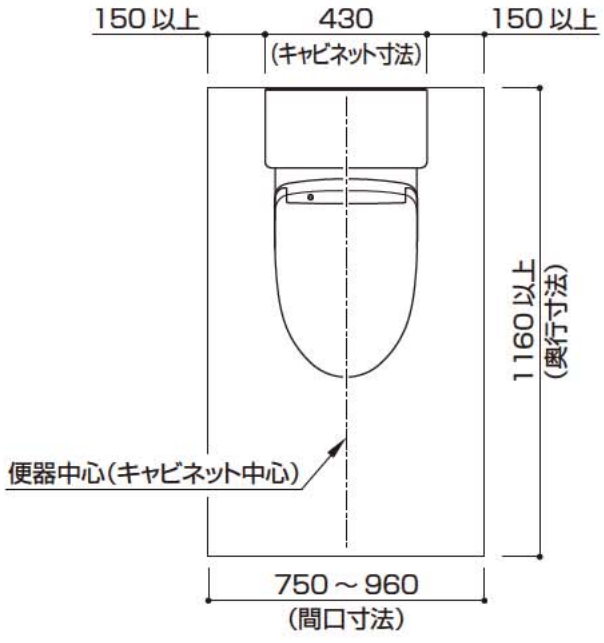
参照 「水漏れ確認」は、本説明書を参照してください。
「ウォシュレットへの通電」はウォシュレット施工説明書を参照してください。

1 設置寸法

トイレの広さは以下の寸法を確保してください。間口750mm未満961mm以上には対応できません。

間口750～960mm

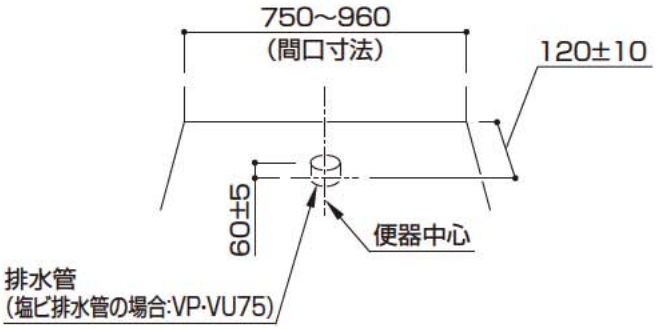
※リモデルの場合、レストルームドレッサーを設置するときに、
商品タイプによって最小奥行寸法が異なります。



2 排水位置

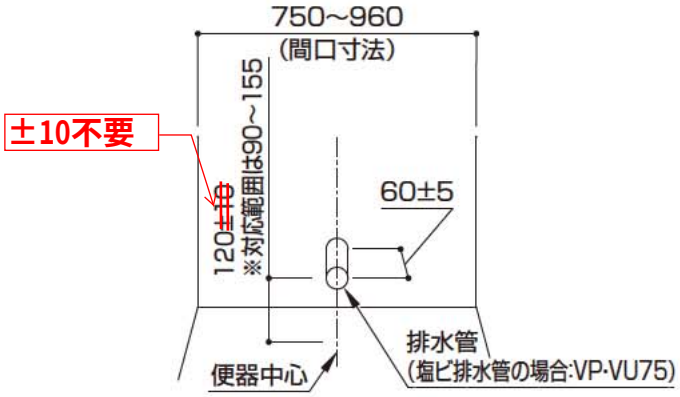
床排水

・下図の位置に便器の排水心があることを確認してください。
・排水管(塩ビ排水管の場合：VP・VU75)は床から 60±5mmで立ち上げてください。
・排水管(塩ビ排水管の場合：VP・VU100)には接続できません。



壁排水

・下図の位置に便器の排水心があることを確認してください。
・排水勾配は必ず 1/50 以上確保してください。
・便器と排水管はジャバラ管(材質：軟質塩ビ)での接続となります。
・排水管(塩ビ排水管の場合：VP・VU100)には接続できません。
・幅木と干渉する場合は幅木をカットしてください。

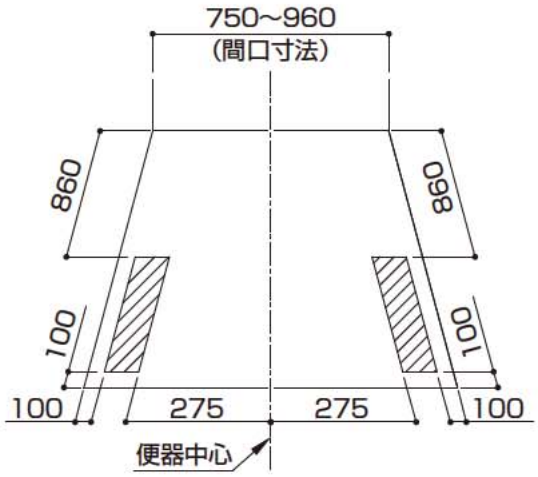


3 寒冷地 水抜方式の場合の水抜栓位置

一般地 / 寒冷地 流動方式の場合
…P.9 4 へ

・水抜栓立ち上げ可能な範囲は右図のとおりです。

事前確認
□紙巻器の設置位置を確認
※水抜栓高さが、450mmを超える場合は、紙巻器に干渉するおそれがあります
□棚付二連紙巻器を設置する場合は、棚板などと干渉しないかを確認

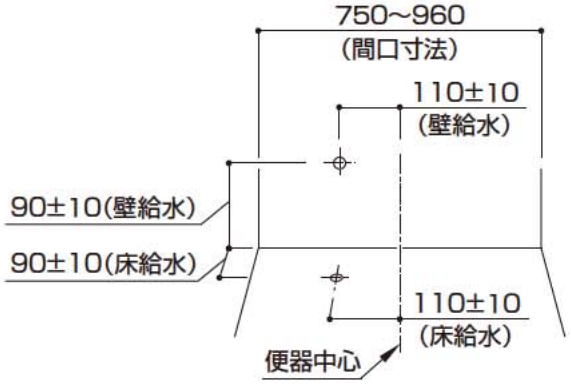


4 給水位置

・右図の位置に仕上面と同一面に給水管(Rc1/2)を取り出してください。
・給水管は必ず正面向かって左側に立ち上げてください。
・幅木と干渉する場合は幅木をカットしてください。

床排水タイプで寒冷地 水抜方式の場合

床給水のみとなります。



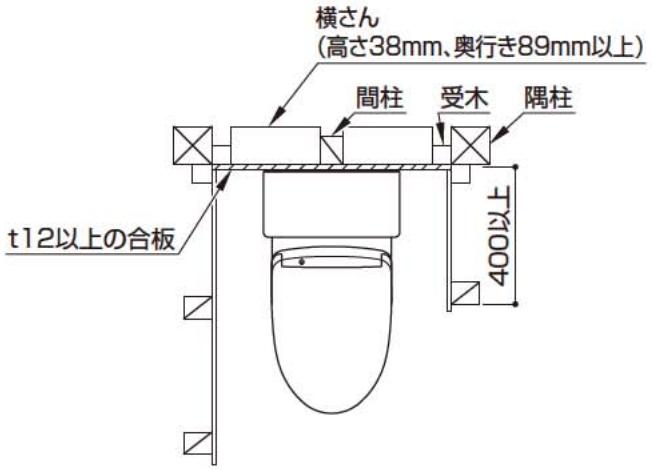
5 補強材位置(必ず入れる)

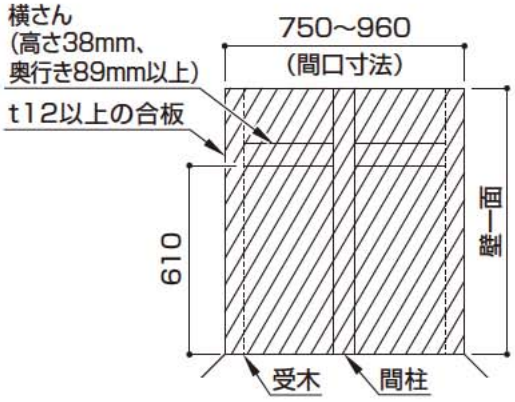
ねじ位置については下記URL内の「ねじ位置情報」をご覧ください。
【URL】
http://search.toto.jp/contents/navi/construction/wl/default.htm

・施工にあたっては、下記以上の強度の補強を必ず施してください。
・周辺部材を設置する場合は取付面にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。
・合板は間柱および受木に確実に固定してください。
・木材や建築部材が腐食などで強度不足でないことをご確認ください。
・隅柱は奥行き89mm×幅38mm以上で入れてください。
・間柱および受木は、奥行き89mm×幅38mm以上のものを、ピッチ455mm以下で入れてください。
根太は高さ45mm×幅36mm以上のものを、ピッチ303mm以下で入れてください。
また、束などによる支持を、ピッチ910mm以下で入れてください。
・ねじ位置詳細図とあわせてご確認ください。

間口750～960mm

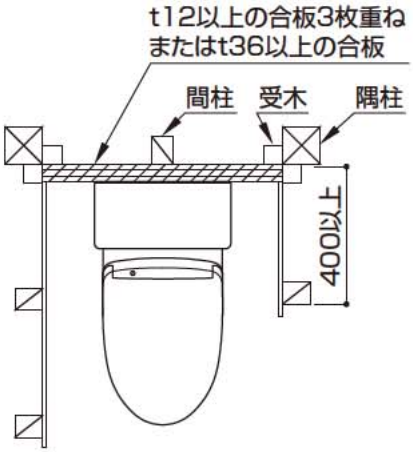
【新築の場合】

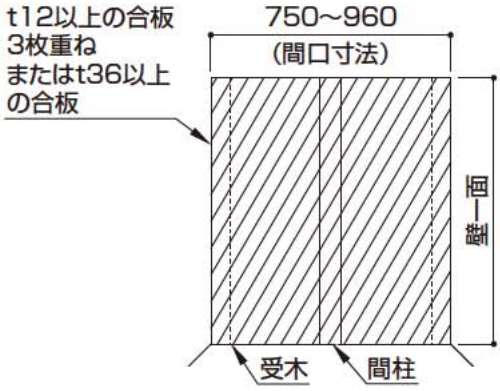




・横さんは高さ38mm×奥行き89mm以上で入れてください。
・横さんは間柱/受木に建築用金物で確実に固定してください。
・後壁全面(上図の斜線部)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を必ず入れてください。
・合板は間柱/受木に確実に固定してください。
・後壁と横壁が受木/隅柱を介し、連結されていることをご確認ください。
・横壁に扉が付く場合でも、後壁から400mmは壁を設置してください。

【リモデルの場合】





・後壁全面(上図の斜線部)にt12以上の合板(JAS規格相当品)3枚重ね、または、t36以上の合板(JAS規格相当品)を必ず入れてください。(トイレの奥行寸法が最大36mm狭くなります。)
・合板は間柱/受木に確実に固定してください。
・後壁と横壁が受木/隅柱を介し、連結されていることをご確認ください。
・横壁に扉が付く場合でも、後壁から400mmは壁を設置してください。

6 電気配線

定格消費電力は下表を参照してください。(AC100V 50/60Hz共通です。)

定格消費電力	ウォシュレット					ヒーター付セットタンク (寒冷地 水抜方式)	照明
	1278W (F1A、F2A)	1279W (F3A)	1281W (F3AW)	318W (S1A)	408W (S2A)	2W	4.3W

コンセント設置位置

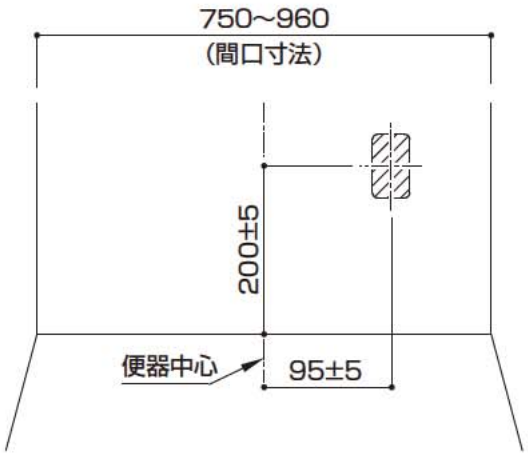
・下表の該当するコンセント位置をご確認ください。

	照明あり	照明なし
一般地	①	①
寒冷地 流動方式	①	①
寒冷地 水抜方式	②	①

・コンセントは接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式コンセントを設置してください。
・コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。
・コンセントは必ず正面に向かって右側に設置してください。

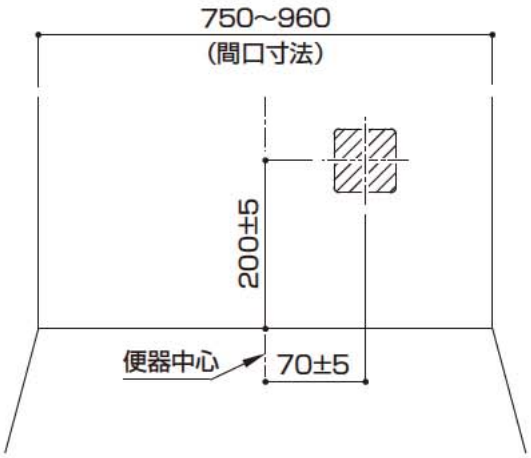
①2口コンセント

接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセントを設置してください。



②4口コンセント

接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式4口コンセントを設置してください。
※接地極は右下側



7 幅木

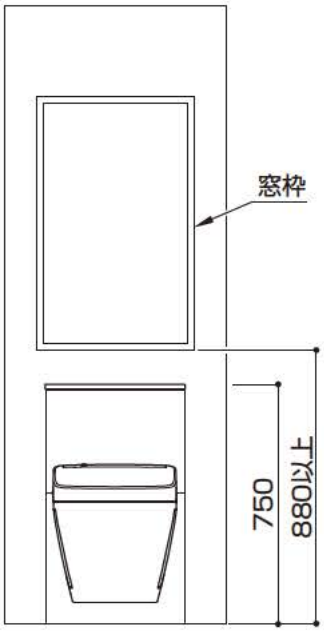
・幅木の大きさは、高さ75mm以下、厚さ10mm以下としてください。

8 窓枠など

・周辺部材（鏡・手すりなど）を取り付ける場合は、周辺部材の説明書を参照してください。
・壁に窓枠や腰壁の見切りなどの突起物などがある場合、下図のような制約が付きます。事前に商品と干渉しないよう窓枠や腰壁の見切りなどの位置を設定してください。

大便器後壁に窓がある場合

・リモデルの場合、窓枠の奥行きを変更する必要があります。



9 必要工具

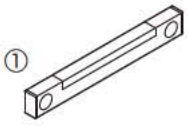
※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具を用意してください。

電動ドライバー
(+)65mm
#2ビット
(+)200mm
#2ビット・#3ビット

カッター

ドライバー
(+)65mm
#2ビット
(+)200mm
#2ビット
(−)150mm

電動ドリル用キリ
φ3、φ4.5



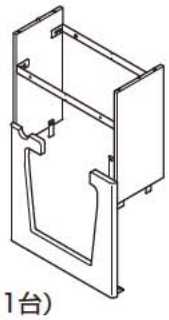
水平器
必要寸法
①350mm以上
②150mm以下

モンキーレンチ
(200mm)

3.部品の確認

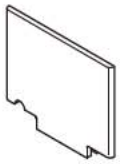
コアキャビネット

コアキャビネット組品 手順4



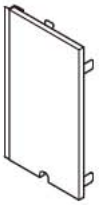
（1台）

前板組品 手順4・9

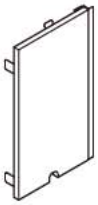


（1枚）

点検口組品 手順4・13

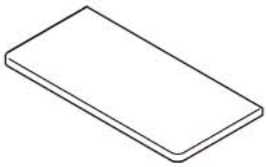


左側（1枚）



右側（1枚）

天板 手順14



（1枚）

説明書

施工説明書

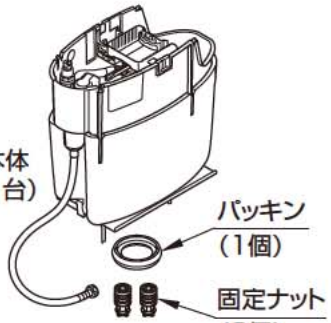
（1冊）

取扱説明書

（1冊）

開閉工具
（1個）

セットタンク 手順8



ピン（1個）
※ピンはジョイント端に付いています。

カバー(A)
（1枚）

カバー(B)
（1枚）

【寒冷地 流動方式の場合】
手順11

流動レバー
（1個）

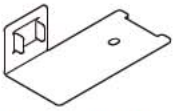
レバー止め
（1個）

付属材セット（キャビネット）

手順4

アングル
（2個）

手順8



取付材（洗浄レバー）
（1個）

ねじセット 手順2・4・6・8

トラスタッピンねじ
5×14（1本）

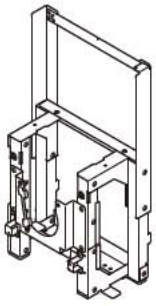
トラスタッピンねじ
4×50（4本）

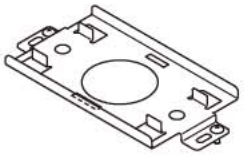
ホース貫通部キャップ
（1個）

配管用パッキン
（1個）

大便器スタンド

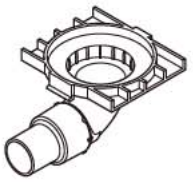
手順1･5･7


スタンド
（1台）


タンク固定板
（1枚）

トラス小ねじ
M6×16（2本）

接続管組品　手順7


（1個）

なべタッピンねじ
6×50（12本）
（スタンド･壁･床固定用）
※予備のねじが2本残ります。

ボルト
M16×125（2本）

化粧座金
（外形:φ42mm）
M16（4枚）

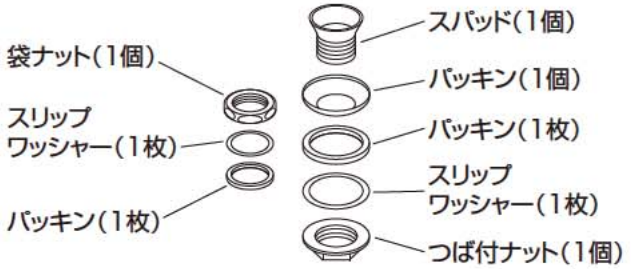
平ゴムパッキン
（外形:φ41mm）
（2枚）

六角ナット
M16（4個）

平座金
M16（2枚）

異形ゴムパッキン
（2個）

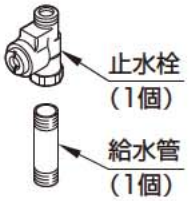
スパッド　手順5･7



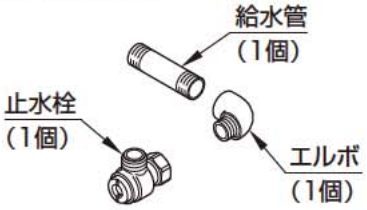
止水栓　手順2

※止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください。

【床給水仕様】



【壁給水仕様】



接続管　手順3･5

【床排水】

接続管組品
（1個）

【壁排水】

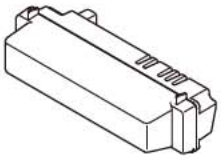
接続管組品
（1個）

【共通】

排水パッキン
（1個）

ホースバンド
（1個）

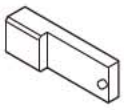
付属材セット（照明）※オプション品　手順4･9


LED照明ユニット
（1台）

ACアダプター
（1台）

電源コード
（1個）

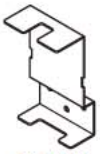
中継ハーネス
（1個）


センサー
（1個）

結束バンド
（2本）

取付材
（センサー）（1個）

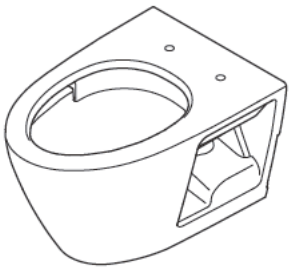
トラスタッピンねじ
4×12（3本）


取付材
（アダプター）（1個）

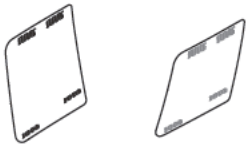
トラスタッピンねじ
4×12（3本）

大便器

手順5



大便器本体
（1台）

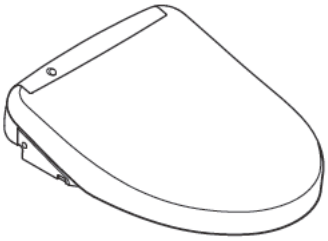


サイドカバー
（2枚）

ウォシュレット

【ウォシュレット アプリコット（品番：TCF4*）/ウォシュレット S（品番：TCF6*）】

手順2･6･8･15

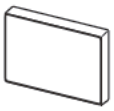


本体（1台）

※機種によってデザインなどが異なります。

リモコン部品

ハンガー
（1個）



リモコン
（1個）

なべタッピンねじ
4×30（3本）

乾電池 単3形
（2個）

アンカープラグ
（3本）

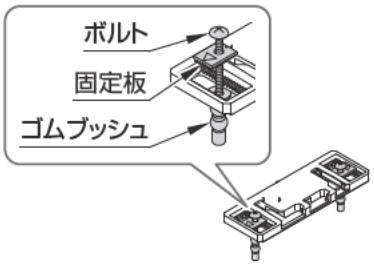
※機種によってデザインなどが異なります。

分岐金具

（1個）

パッキン
（2枚）

ベースプレート一式



※機種によってデザインなどが異なります。

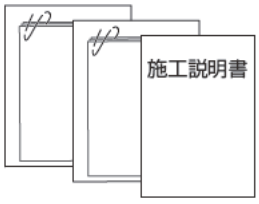
取付説明書

（1冊）

下記部品は
使用しません

クッション
（1個）

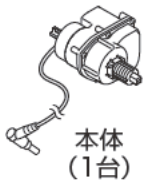
印刷物



（1冊）

便器洗浄ユニット

手順8



本体
（1台）

流すボタン
（1個）

ハンドル
（1個）

皿ねじ
3×10（1本）

ナット
（1個）

ストッパーL（緑）
（1個）

【下記部品は使用しません】

ワッシャーA
（1個）

ワッシャーB
（1個）

コードフック
（7個）

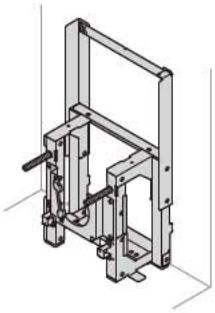
サンドペーパー
（1枚）

シール
（1枚）

4.施工ダイジェスト

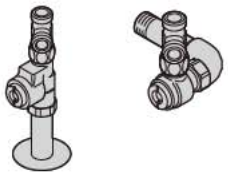
施工ダイジェストはおおよその施工の流れをご理解いただくためのものです。
施工にあたっては、手順編の内容を十分に確認し、安全上のご注意、施工上のご注意を必ずお守りください。

1.スタンド



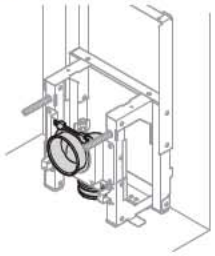
2.止水栓

▶床給水…P.20へ
▶壁給水…P.20へ



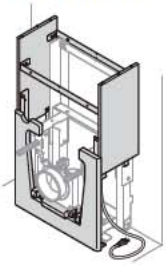
3.接続管(排水部)

▶床排水…P.21へ
▶壁排水…P.21へ

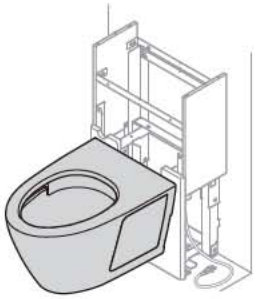


4.コアキャビネット組品

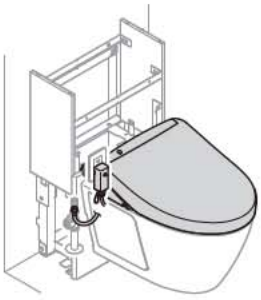
▶照明ありの場合…P.22 2 へ
▶照明なしの場合…P.23 3 へ



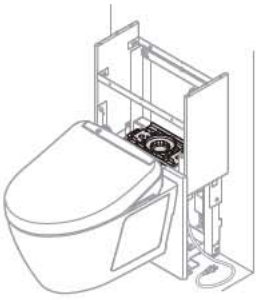
5.大便器



6.ウォシュレット

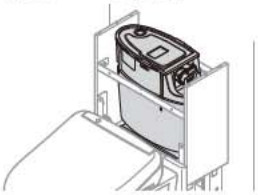


7.接続管組品



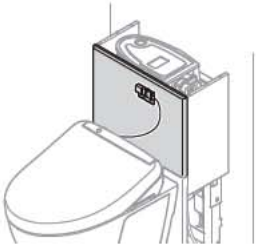
8.セットタンク

▶ウォシュレット アプリコット
(品番:TCF4*)の場合…P.32へ
▶ウォシュレット S
(品番:TCF6*)の場合…P.33へ

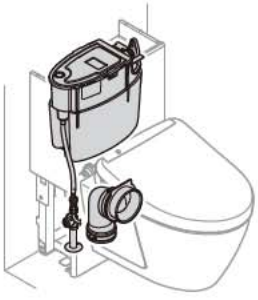


9.前板組品

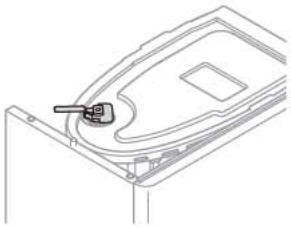
▶照明ありの場合…P.34 1 へ
▶照明なしの場合…P.34 2 へ



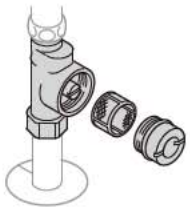
10.試運転・確認



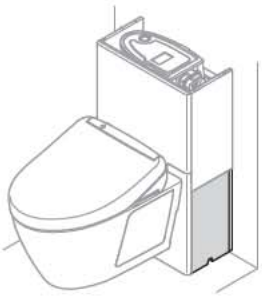
11.流動レバー



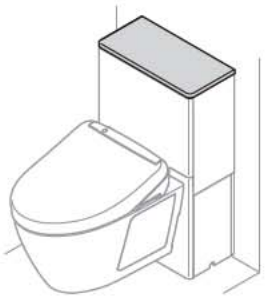
12.給水フィルターの清掃



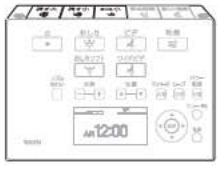
13.点検口組品



14.天板

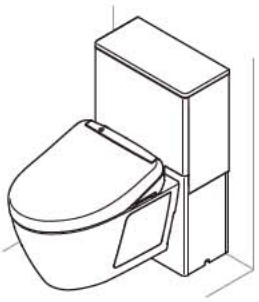


15.リモコン



※機種によってデザインなどが異なります。

16.仕上げ



手順編

1.スタンド	▶18
2.止水栓	▶20
3.接続管（排水部）	▶21
4.コアキャビネット組品	▶22
5.大便器	▶25
6.ウォシュレット	▶27
7.接続管組品	▶28
8.セットタンク	▶29
9.前板組品	▶34
10.試運転・確認	▶35
11.流動レバー	▶40
12.給水フィルターの清掃	▶40
13.点検口組品	▶41
14.天板	▶42
15.リモコン	▶42
16.仕上げ	▶42
引渡し前の点検	▶裏表紙

マーク表示について

寒冷地仕様の場合を示します。

電動ドライバー使用禁止です。手締めしてください。

下穴を開けてください。（例:φ3の場合）

シールテープを巻いてください。

カットしてください。

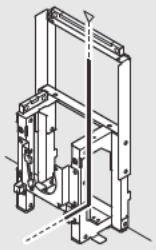
水平器で水平確認してください。

けがきをしてください。

しっかり締め付けてください。

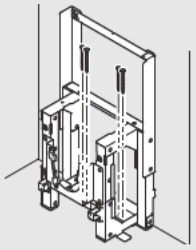
1. スタンド

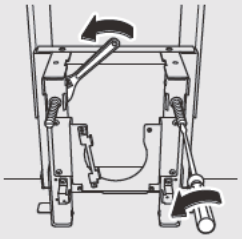
1



スタンドの仮設置
▶P.18

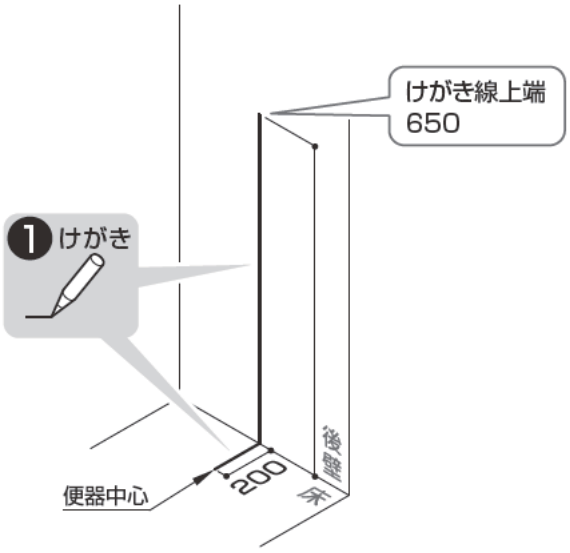
2

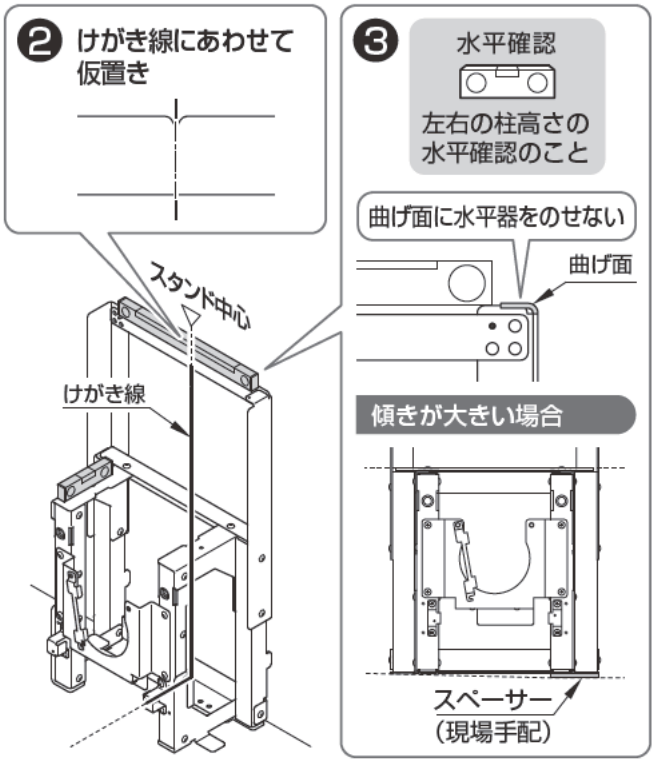




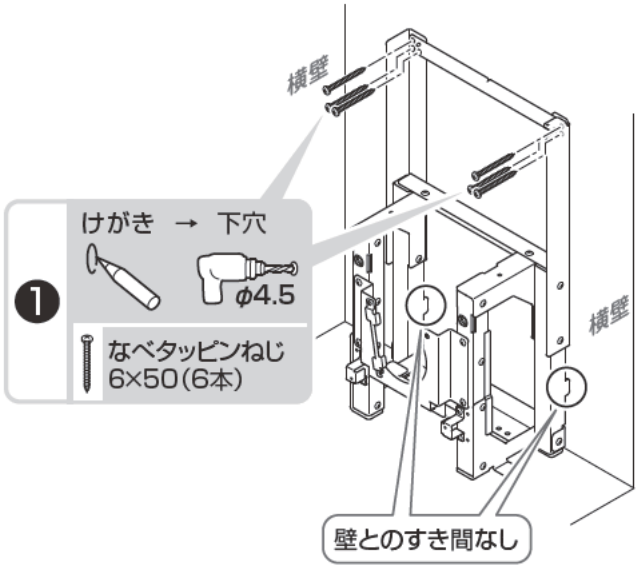
スタンドの固定
▶P.18

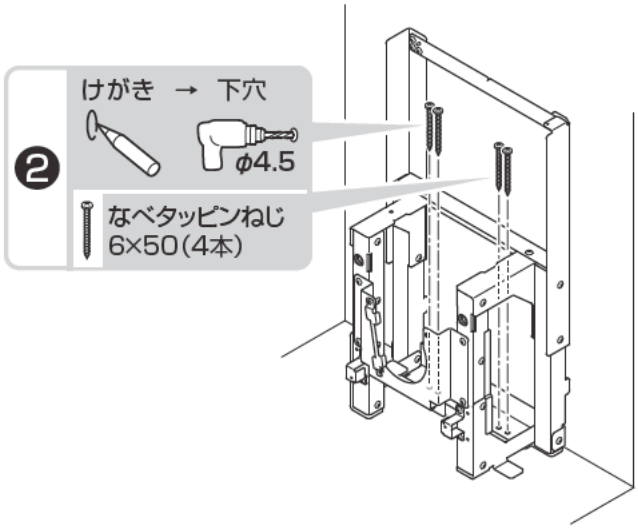
1 スタンドの仮設置





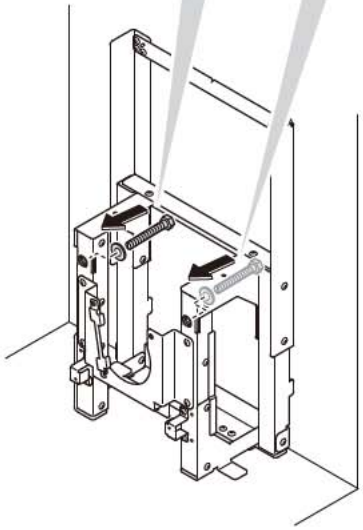
2 スタンドの固定





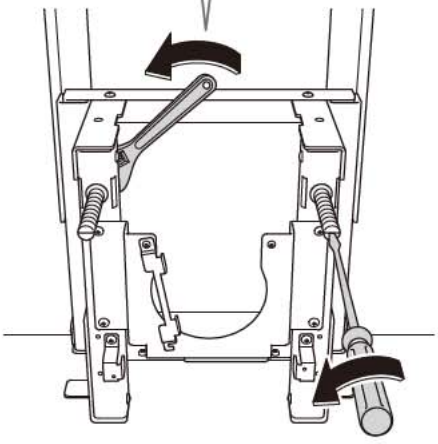
※予備のねじが2本残ります。

❸ ボルト M16×125(2本) ◎ 平座金 M16(2枚)



❺ ボルトの頭部分をスパナなどの工具で最後までしっかりと締め付ける

しっかり締め付ける



❹ ボルトのすりわり部をマイナスドライバーで回して固定する

MEMO

2. 止水栓

1 止水栓・分岐金具の取り付け

●取付位置は正面向かって左

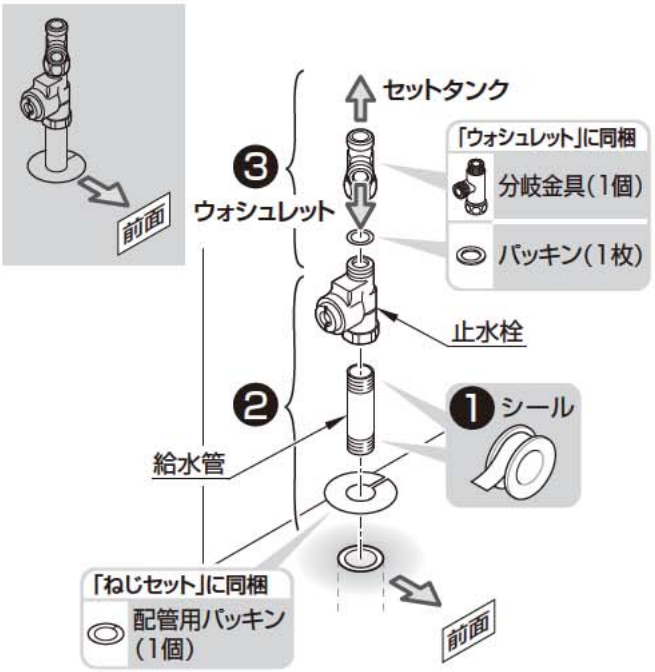
⚠注意

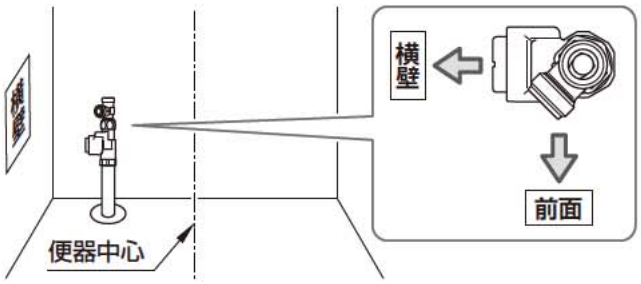
必ず守る

止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付ける
設置いただけない場合、フィルターがないため給水管内の異物が除去されず、ゴミかみや異物詰まりによる止水・吐水不良を起こすおそれがあります。

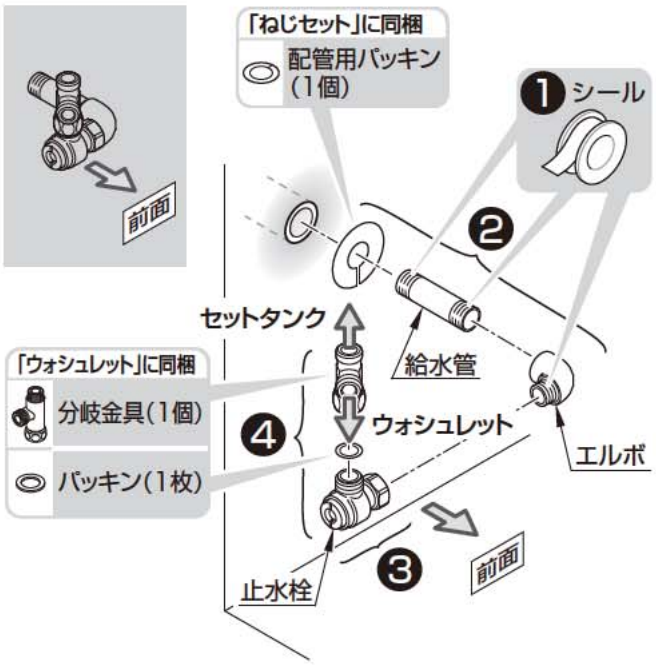
止水栓、分岐金具は下図のとおり取り付ける
給水ホースが商品と干渉し、施工できない原因となります。

床給水

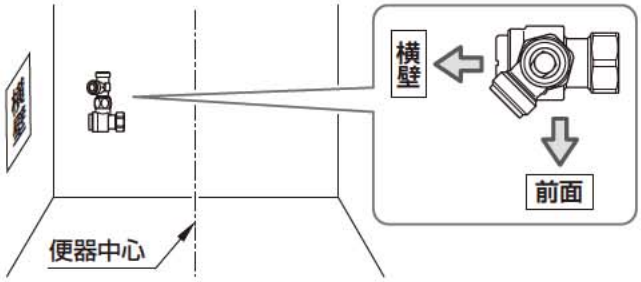




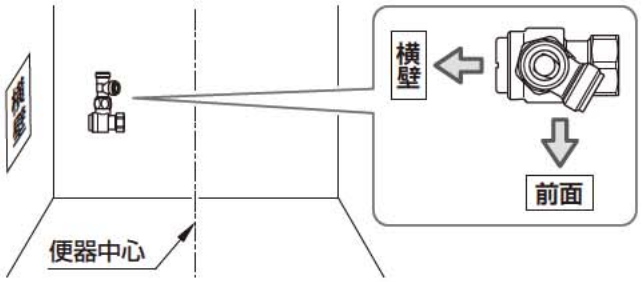
壁給水



【ウォシュレット アプリコット（品番:TCF4*）の場合】



【ウォシュレット S（品番:TCF6*）の場合】



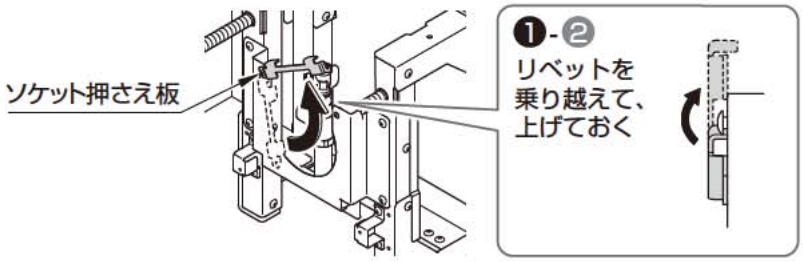
3. 接続管（排水部）

接続管に同梱されている排水パッキンは「5.大便器（P.25）」で使用します。

1 接続管の取り付け

❶ ソケット押さえ板を上げておく

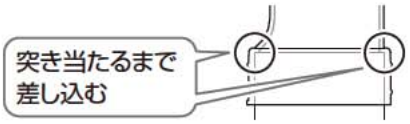
❶-❶ テープ留めを外す



⚠注意

必ず守る

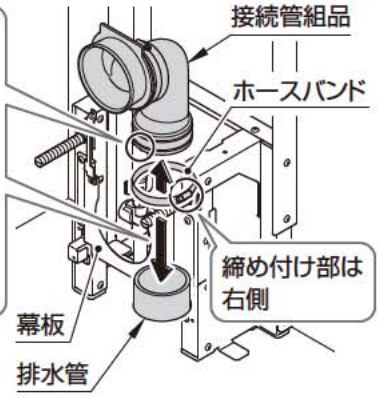
・接続管組品に水または水石けんを付けてから差し込む
・接続管組品は奥まで差し込む
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



床排水

❷ 接続管組品とホースバンドを取り付ける

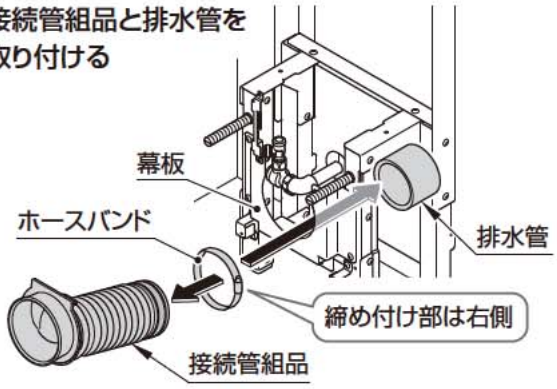
❸ 接続管組品と排水管を取り付ける



壁排水

❷ 接続管組品とホースバンドを取り付ける

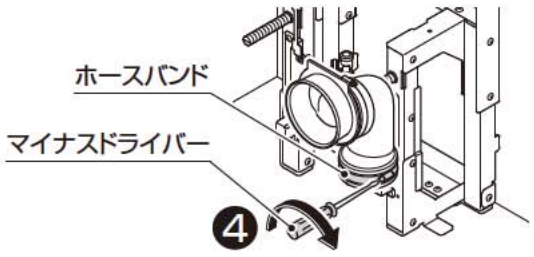
❸ 接続管組品と排水管を取り付ける

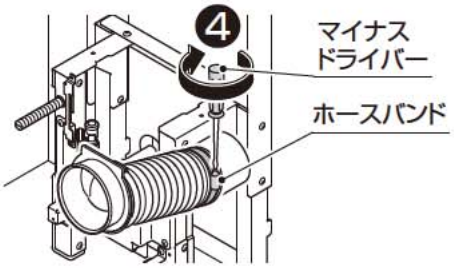


⚠注意

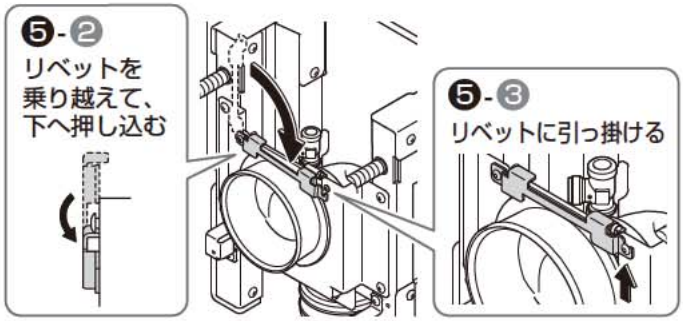
必ず守る

ホースバンドは、電動ドライバーで締め付けない
接続管組品にしわがよったり破れたりして、水漏れし、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



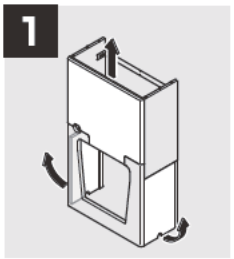


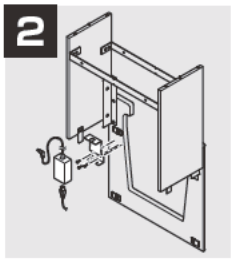
❺ 接続管組品を固定する

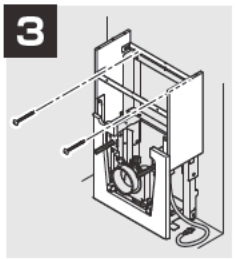


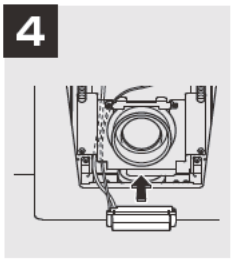
4. コアキャビネット組品

照明ありの場合 ･･･P.22 2へ
照明なしの場合 ･･･P.23 3へ

照明あり／なし共通 **1** 
前板組品と点検口組品の取り外し ▶P.22

照明ありの場合 **2** 
ACアダプターの取り付け ▶P.22

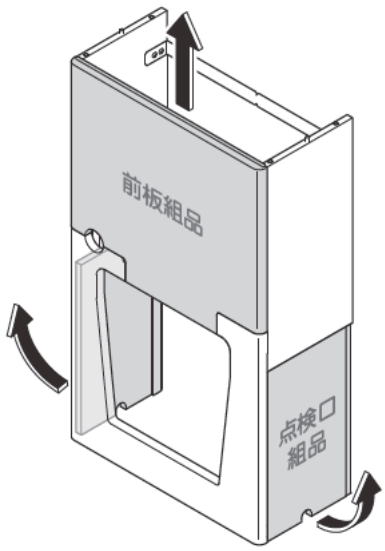
照明あり／なし共通 **3** 
コアキャビネット組品の取り付け ▶P.23

照明ありの場合 **4** 
LED照明ユニットの取り付け ▶P.24

照明あり/なし共通

1 前板組品と点検口組品の取り外し

前板組品と点検口組品（左右）を取り外す



照明ありの場合

2 ACアダプターの取り付け

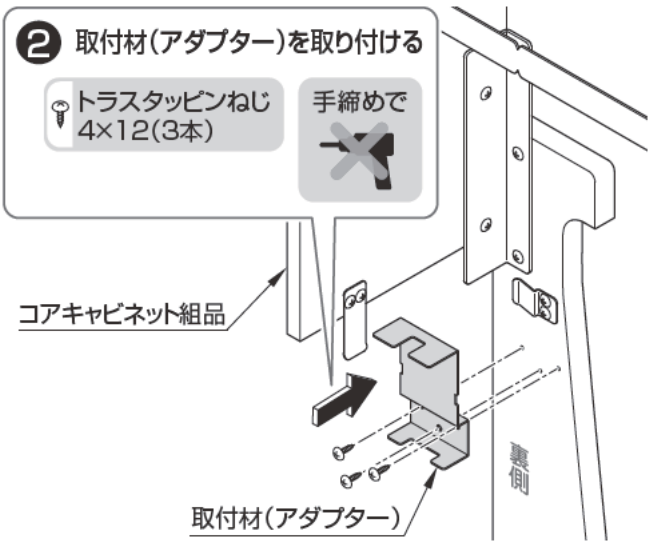
※付属材セット（照明）に同梱されています。

❶ 養生シート等の上で取り付けをする

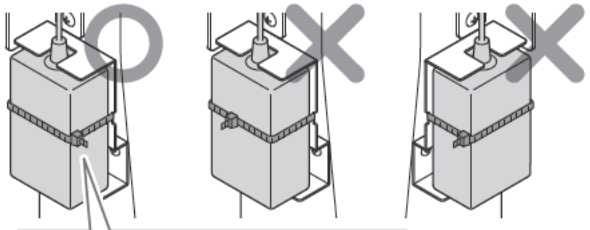
コアキャビネット組品の表面がへこんだり、傷つくおそれがあります

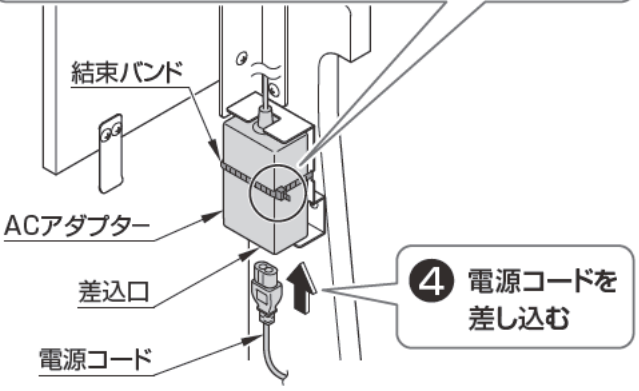
❷ 取付材（アダプター）を取り付ける

トラスタッピンねじ 4×12（3本）　手締めで



❸ ACアダプターを結束バンドで確実に固定する
※結束バンドで固定後、さらに締め付けてください。



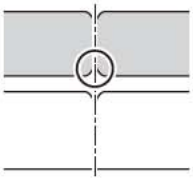


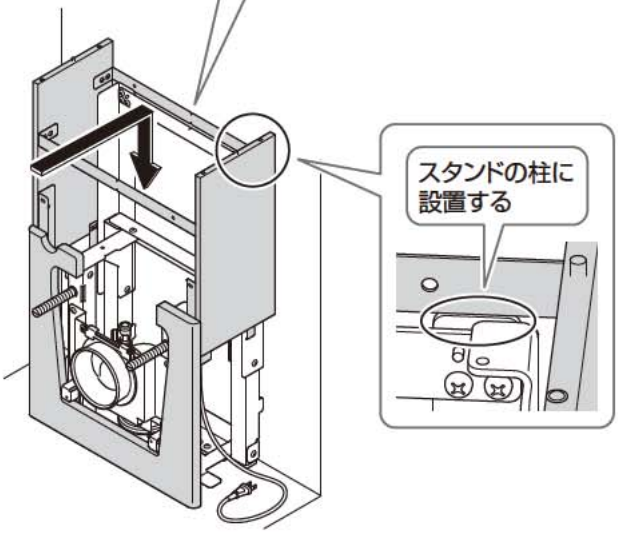
❺ 余った結束バンドを切る

照明あり/なし共通

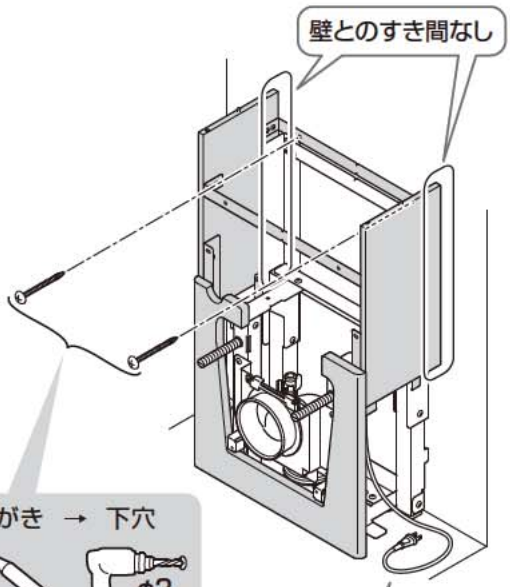
3 コアキャビネット組品の取り付け

❶ コード類を挟み込まないようコアキャビネット組品をスタンドに乗せ、下側の切り欠きをけがき線にあわせる



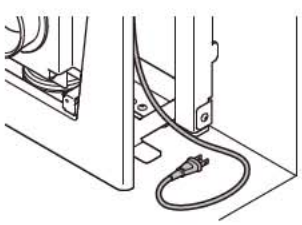


❷ コアキャビネット組品を壁固定する



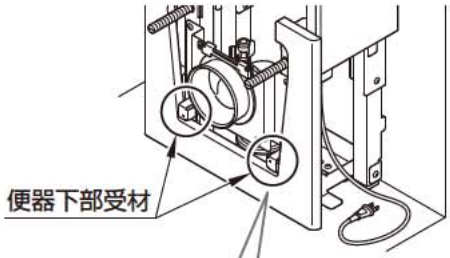
❷-❶
けがき → 下穴 φ3
「ねじセット」に同梱
トラスタッピンねじ 4×50(2本)

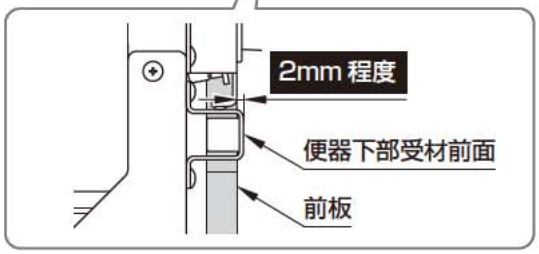
❷-❷
電源コードは右側より外に出す



❸ 便器下部受材前面が前板より2mm程度、前に出るように位置合わせする

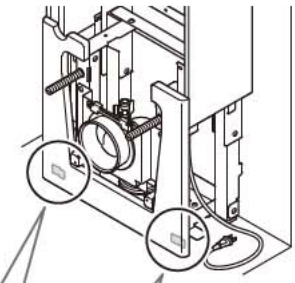
便器下部受材が前板より引っ込んでいると、前板に荷重がかかり破損するおそれがあります。



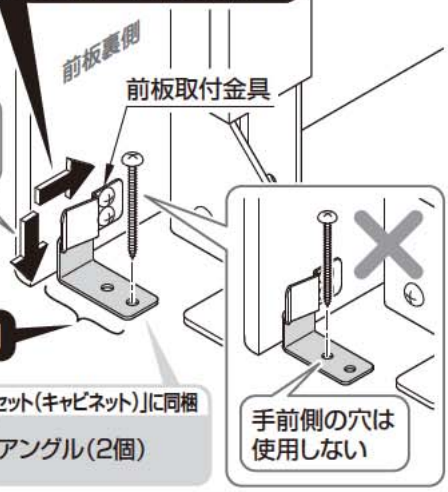


❹ アングルを前板取付金具の奥まで差し込み、床に固定する
差し込みがかたい場合、マイナスドライバーで押し込む
(左右2カ所)

けがき → 下穴 φ3
「ねじセット」に同梱
トラスタッピンねじ 4×50(2本)



❹-❶ 奥まで差し込む
奥まで差し込めてないと点検口組品とアングルが干渉して施工できません

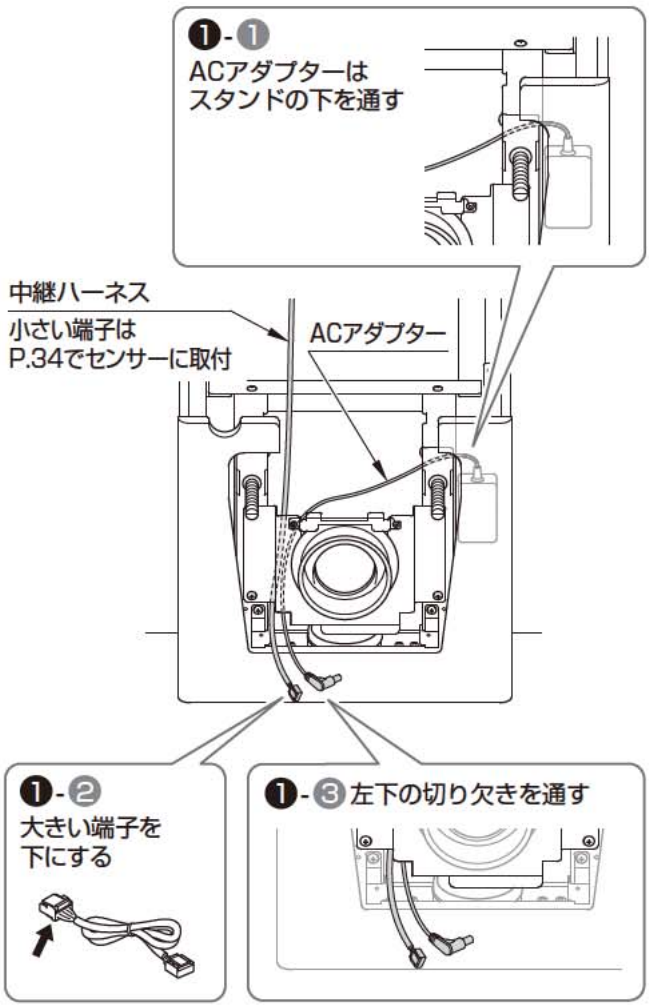


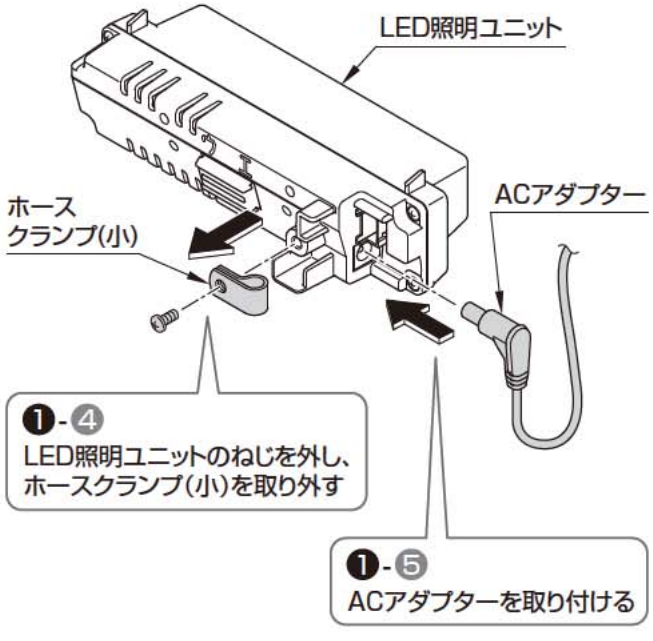
❹-❸ □ 便器下部受材前面が前板より2mm程度、前に出ていることを確認する

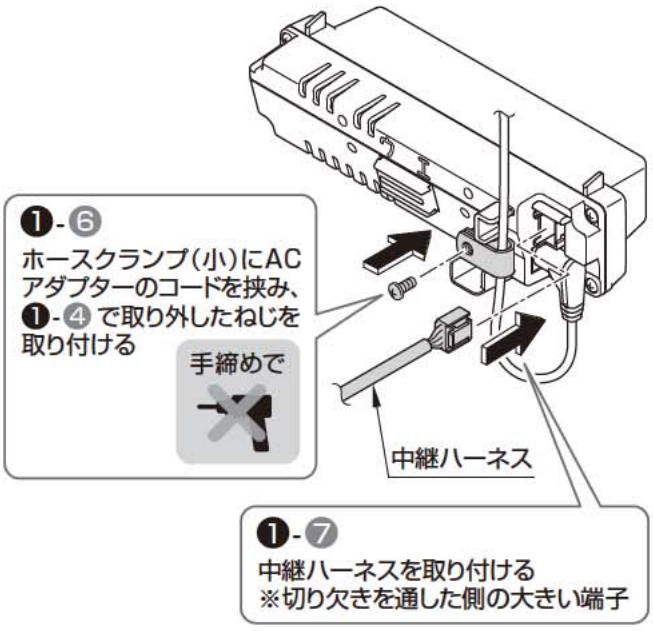
照明ありの場合

4 LED照明ユニットの取り付け

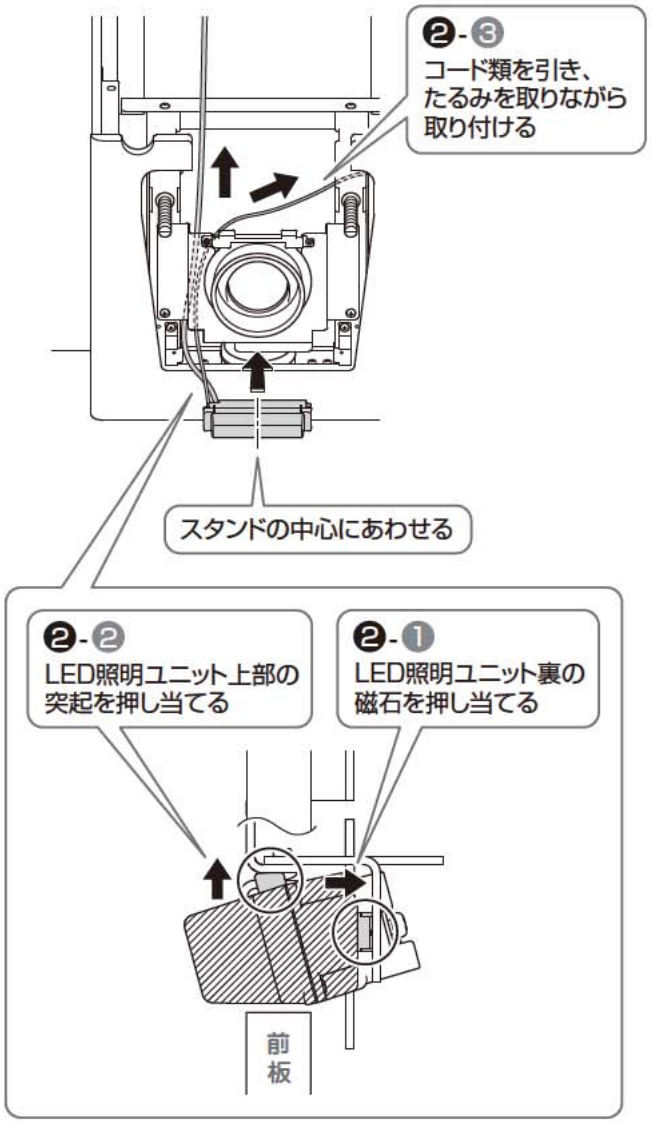
❶ LED照明ユニットを取り付ける





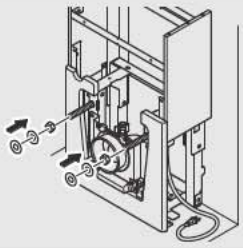


❷ LED照明ユニットをスタンドに取り付ける



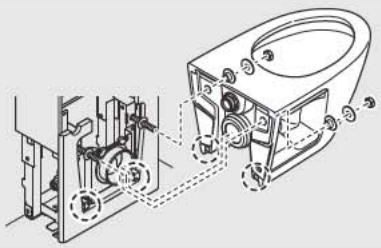
5. 大便器

1



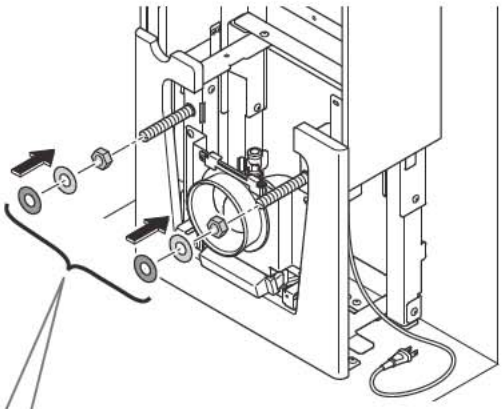
取り付けの準備
▶P.25

2



大便器の取り付け
▶P.26

1 取り付けの準備

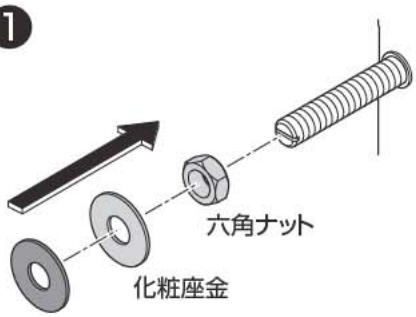


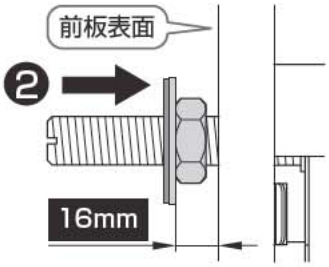
⚠注意

必ず守る

化粧座金が前板表面より16mmの位置になるように調整する
前板に荷重がかかり破損するおそれがあります。

❶





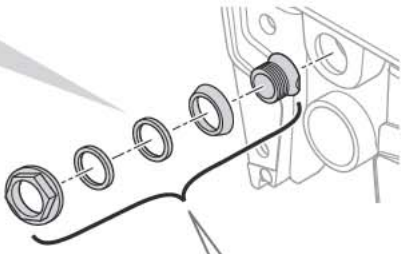
⚠注意

必ず守る

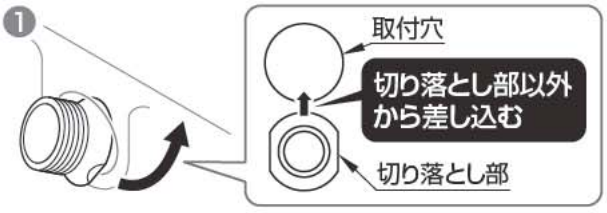
大便器の底に張ってある断熱材は、はがさない
はがしたり傷付けたりすると結露した水によって家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

❸

「スパッド」に同梱
- スパッド(1個)
- パッキン(1個)
- パッキン(1枚)
- スリップワッシャー(1枚)
- つば付ナット(1個)



❸-❶



❸-❷

❸-❸

❸-❹

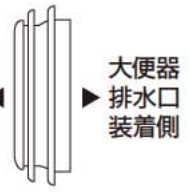
❸-❺

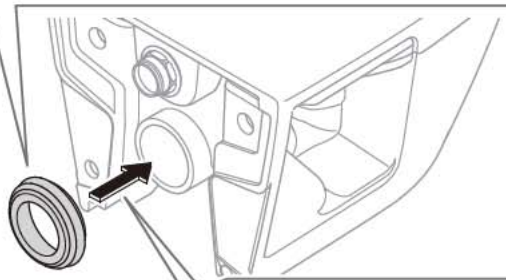
⚠注意

禁止	**グリスは使用しない** 劣化し水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
必ず守る	**・排水パッキン表面に必ず水または水石けんを付けてから差し込む** **・排水パッキンは大便器排水口に密着するまで押し込む** 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

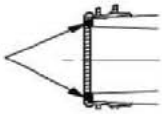
❹ 大便器排水口外周の汚れを取り除き、装着する

「接続管」に同梱
排水パッキン（1個）



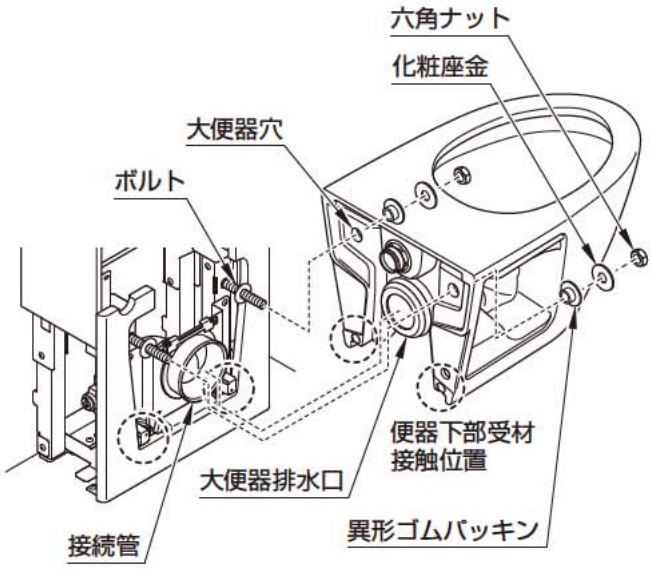


❺ 密着するまで押し込む



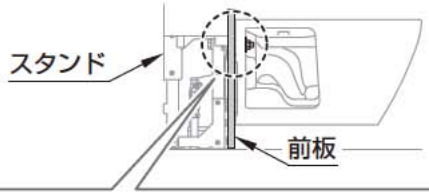
2 大便器の取り付け

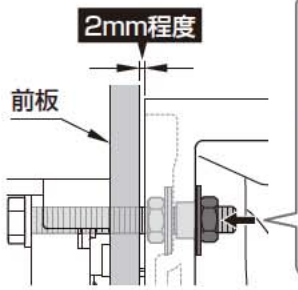
❶ コード類を挟み込まないよう、大便器を仮固定する



⚠注意

必ず守る	**大便器を工具で締め付ける前に、大便器上面のすき間が2mm程度であること、大便器の裏面に平ゴムパッキンが接触していることを確認する** 工具で締め付けた際、前板に荷重がかかり破損するおそれがあります。





❷ 六角ナットを手で締め込む（大便器と前板のすき間が2mm程度）

手締めで

❸ □接続管が逆勾配にならないように確認・調整する

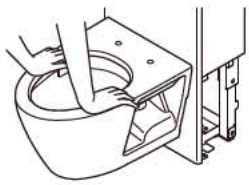
⚠注意

必ず守る	**パッキンの擦れる音がするまで六角ナットを締め込まない** 破損するおそれがあります。

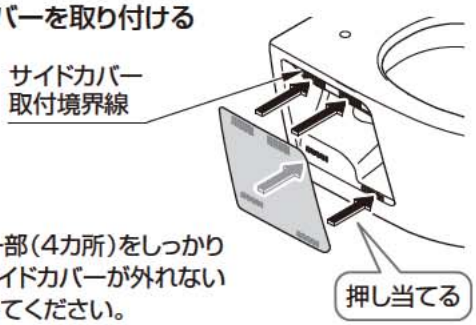
❹ 上部の六角ナットを交互に締め付け本固定する

❺ ぐらつきおよび異音有無を確認すること

大便器先端に両手で荷重をかけ
□大便器がぐらつかないこと
□異音発生のないこと
□前板と大便器のすき間が目立たないこと
□便器下部受材に大便器が接触していること

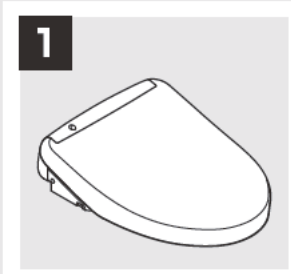


❻ サイドカバーを取り付ける

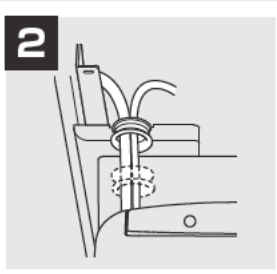


※面ファスナー部（4カ所）をしっかり押さえて、サイドカバーが外れないことを確認してください。

6. ウォシュレット

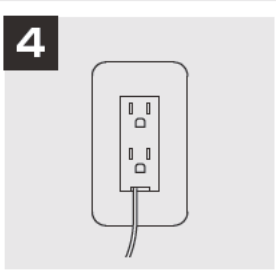


ウォシュレットの設置
▶ウォシュレット施工説明書参照



給水ホース・電源コードのはめ込み
▶P.27

給水ホースの接続
▶P.27



アース線(ウォシュレット)の接続
▶P.27

1 ウォシュレットの設置

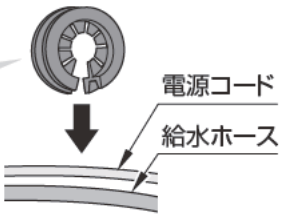
ウォシュレットが傷つかないように養生してください。
▶ウォシュレット施工説明書参照

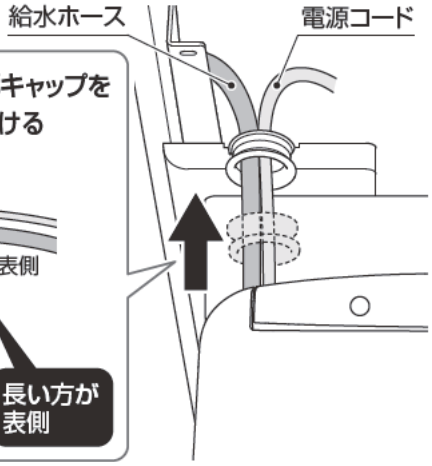
作業がしやすいようにウォシュレットを手前に引き出しておく

2 給水ホース・電源コードのはめ込み

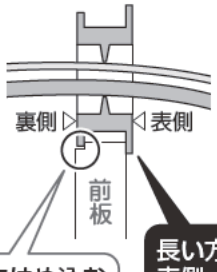
❶ ホース貫通部キャップに給水ホースと電源コードを挿入する

「ねじセット」に同梱
ホース貫通部キャップ(1個)

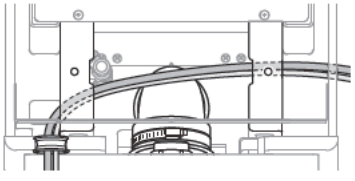


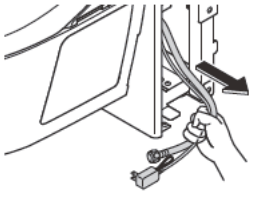


❷ ホース貫通部キャップを前板に取り付ける



❸ 電源コード、給水ホースはスタンドの下側、接続管の上側を通し、キャビネットの右側より引っ張り出す





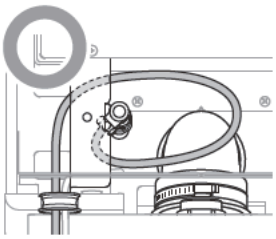
3 給水ホースの接続

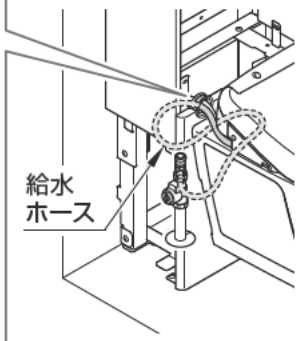
⚠注意

禁止 給水ホースを折り曲げたりしない
水漏れの原因となります。

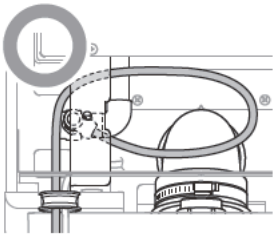
給水ホースが折れ曲がらないように、注意して取り付ける

床給水・壁給水(ウォシュレット アプリコット)の場合

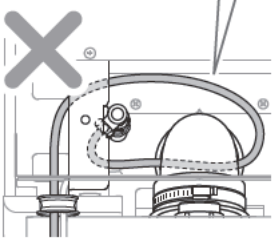




壁給水(ウォシュレット S)の場合



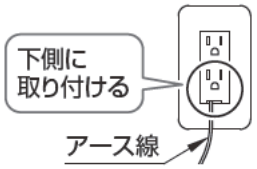
給水ホースが接続管の上下をまたがないようにする



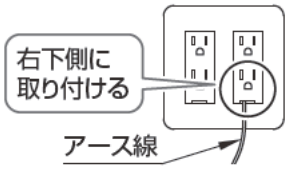
4 アース線(ウォシュレット)の接続

アース線のみ取り付ける

2口コンセントの場合

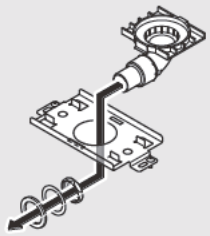


4口コンセントの場合



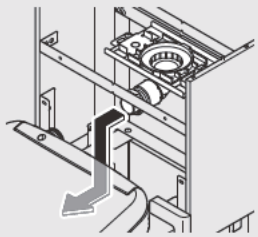
7. 接続管組品

1



接続管組品の組み立て
▶P.28

2



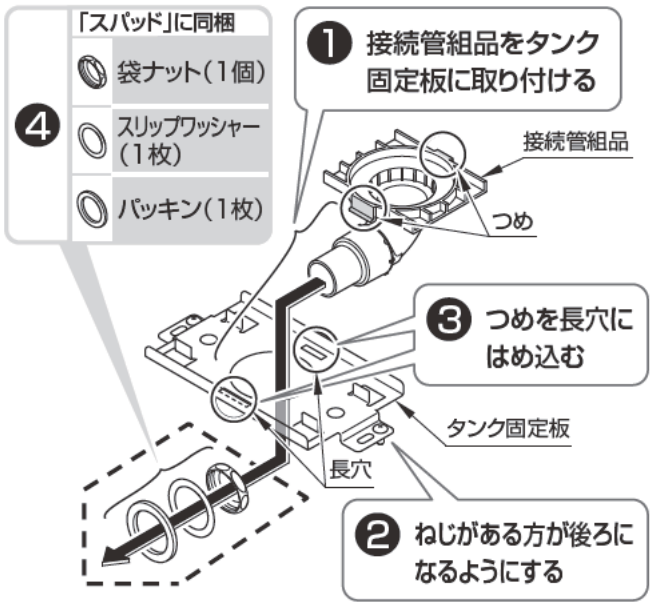
接続管組品の取り付け
▶P.28

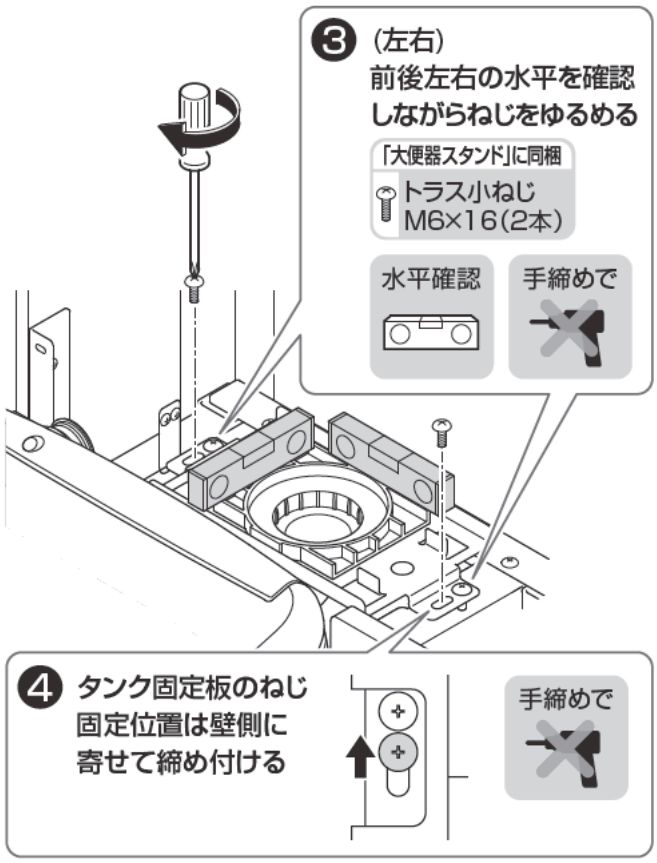
1 接続管組品の組み立て

⚠注意

必ず守る

袋ナット・スリップワッシャー・パッキンの取付順番を間違えないようにする
水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

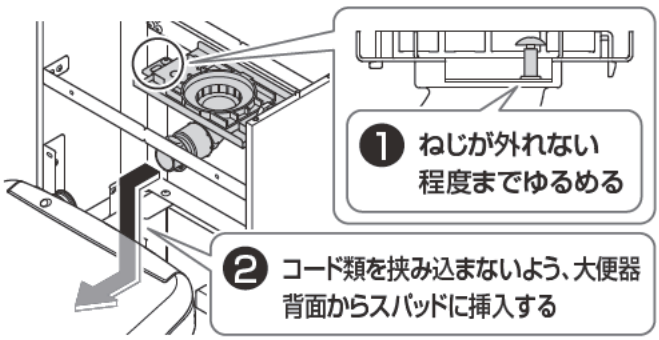




下記内容を確認すること。

□接続管組品は前方に寄せて締め付けのこと
□接続管組品が前後左右水平であること
□ねじにゆるみ、ガタつきがないこと
※接続管組品が水平でない場合、後でセットタンクを設置した際、セットタンクが傾きコアキャビネット組品や照明部材と干渉します。

2 接続管組品の取り付け



大便器背面からの視点

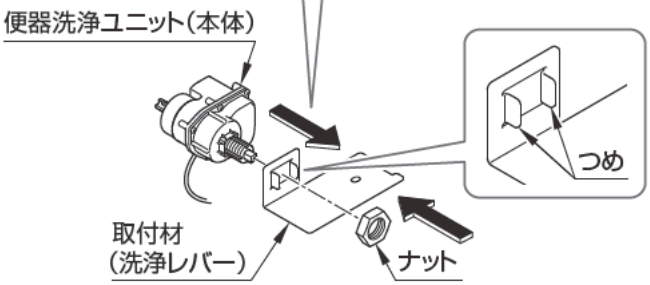
8. セットタンク

1 洗浄レバーの取り付け

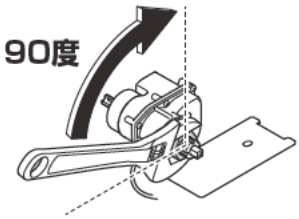
※便器洗浄ユニットに同梱の説明書とは、取付向きが異なります。ワッシャーA、ワッシャーB、コードフック、サンドペーパー、シールは使用しません。

❶ 絵の向きに便器洗浄ユニット(本体)を取付材(洗浄レバー)へ取り付け、ナットが取付材(洗浄レバー)のつめに当たるまで手で締める

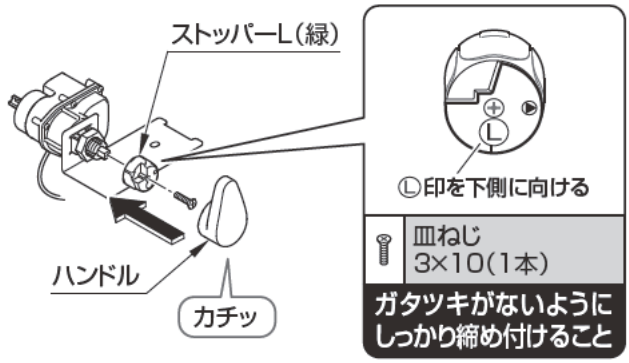
手締めで



❷ モンキーレンチでナットを90度締め付ける



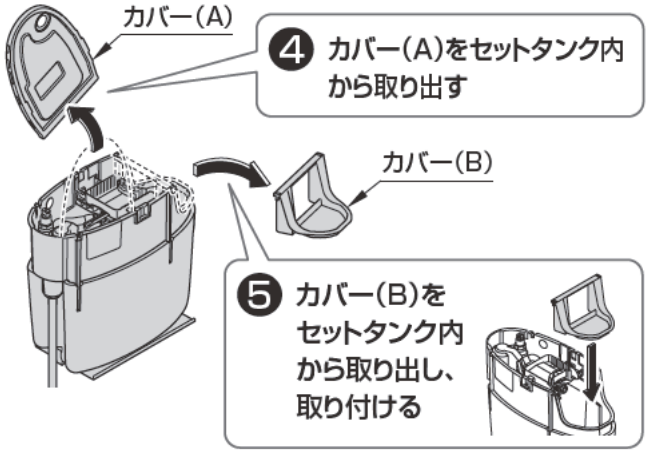
❸ ハンドルは上向き固定し、締め付ける



⚠注意

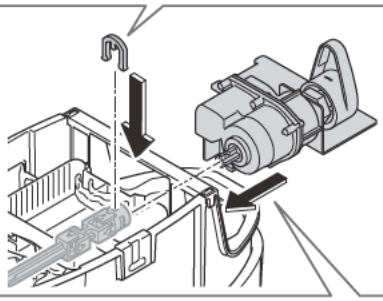
必ず守る

カバー(B)がしっかり閉まっていることを確認する
カバー(B)が閉まっていないと、セットタンク内の水が跳ねて家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

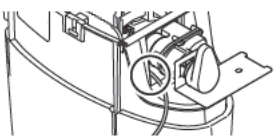


❻ ジョイントからピンを取り外す

❽ カチッと音がするまでピンを差し込み、ジョイントが抜けないことを確認する



❼ 便器洗浄ユニットコードを手前に出し、ジョイントを差し込む



2 セットタンクの取り付け

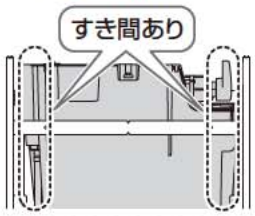
❶ セットタンクの給水ホースはスタンドと側板のすき間を通す

❹ すき間を確認する

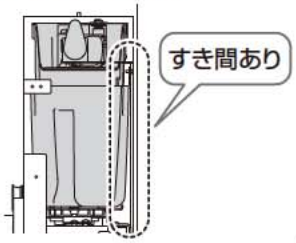
※セットタンクがコアキャビネット組品に干渉している場合は、セットタンクを外して、接続管組品が傾いていないか、確認してください。

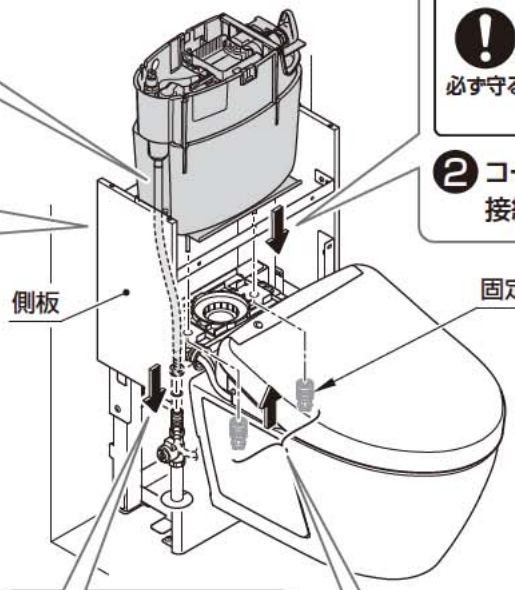
□接続管組品とセットタンク下部の板金（黒）との間

□セットタンクと側板の間



□セットタンクと後壁の間





⚠注意

必ず守る

セットタンクにパッキンがセットされていることを確認する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

❷ コード類を挟み込まないよう、接続管組品にのせる

❺ 給水ホースを止水栓へ接続する

⚠注意

必ず守る

左右の固定ナットを確実に締める
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

固定ナットは交互に締め付ける
セットタンクが傾いて取り付き、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

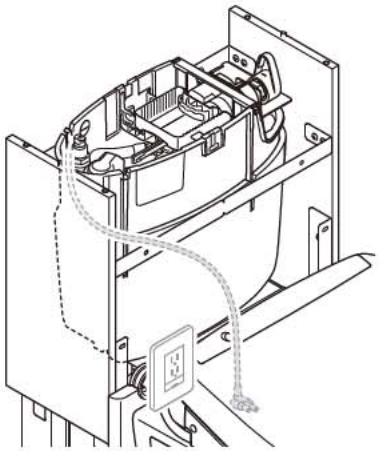
固定ナットを締め付けるときは必ず手で行う
工具を使用すると破損するおそれがあります。

❸ 固定ナットを手締めでかたく締め付ける

寒冷地 水抜方式

一般地/寒冷地 流動方式の場合 …P.31 3 へ

❻ セットタンク用ヒーターの電源プラグをコンセント側に取り回しておく

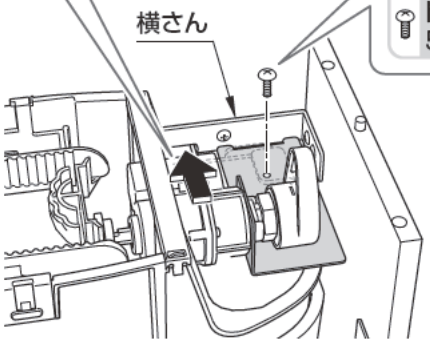


3 洗浄レバーの固定

❶ 便器洗浄ユニットコードを挟み込まないよう、横さんに押し当てる

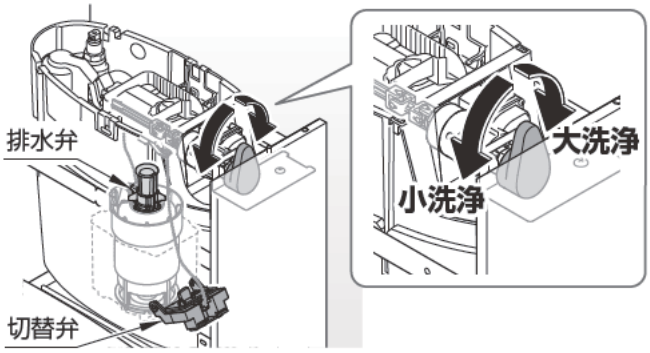
❷ 取付材（洗浄レバー）を取り付ける

「ねじセット」に同梱
トラスタッピンねじ 5×14（1本）



❸ 作動確認

□レバーが「大」側、「小」側へ正常に作動すること
□「大」側に回し、排水弁のみが引き上がること
□「小」側に回し、排水弁・切替弁が引き上がること
□ 洗浄後、レバーが正規の位置に戻ること



⚠注意

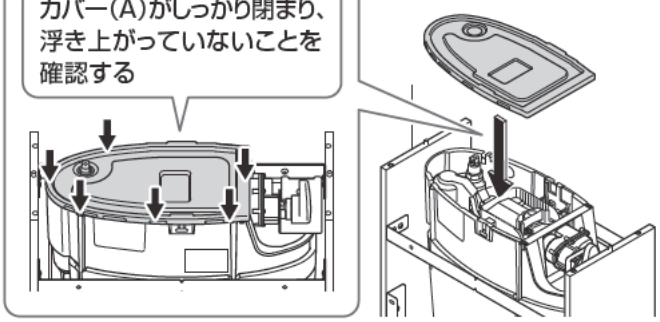
必ず守る

カバー（A）がしっかり閉まっていることを確認する

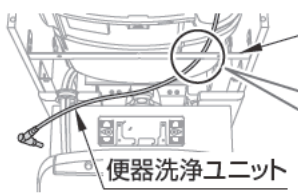
カバー（A）が閉まっていないと、セットタンク内の水が跳ねて家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

❹ カバー（A）を閉じる

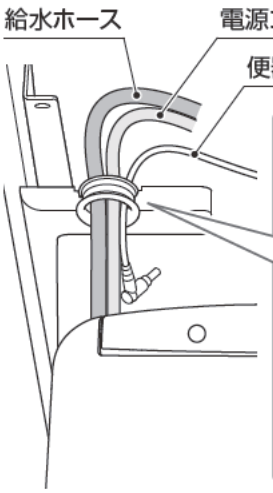
カバー（A）がしっかり閉まり、浮き上がっていないことを確認する



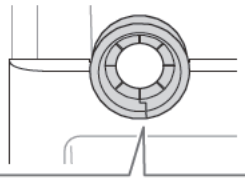
4 便器洗浄ユニットの取り付け



❶ 便器洗浄ユニットを横さんの内側を通す

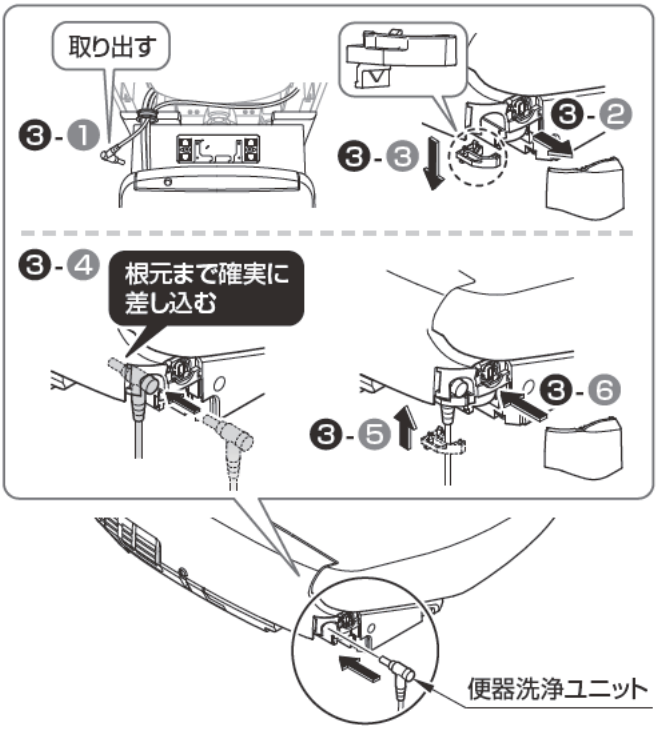


❷ 便器洗浄ユニットをホース貫通部キャップに挿入する



ホース貫通部キャップの開口は下向きに取り付ける

❸ 便器洗浄ユニットをウォシュレットに取り付ける

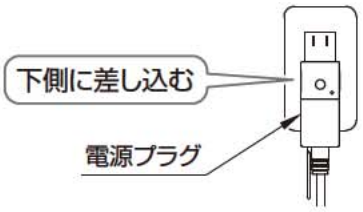


5 リモコンの設定・作動確認

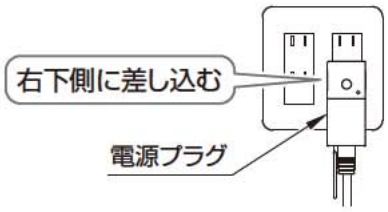
❶ 電源プラグを差し込む

※ノズルがいったん出て戻る初期動作を行うか確認

2口コンセントの場合



4口コンセントの場合



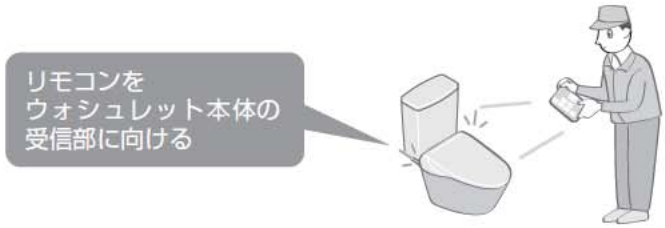
❷ 流すボタンを取り付ける

▶流すボタン取付説明書参照

ウォシュレット アプリコット(品番:TCF4*)の場合･･･P.32 ③へ
ウォシュレット S(品番:TCF6*)の場合･･･P.33 ③へ

ウォシュレット アプリコット(品番:TCF4*)の場合

❸ ウォシュレット本体の電源プラグを差し込んだことを確認し、モード設定をする

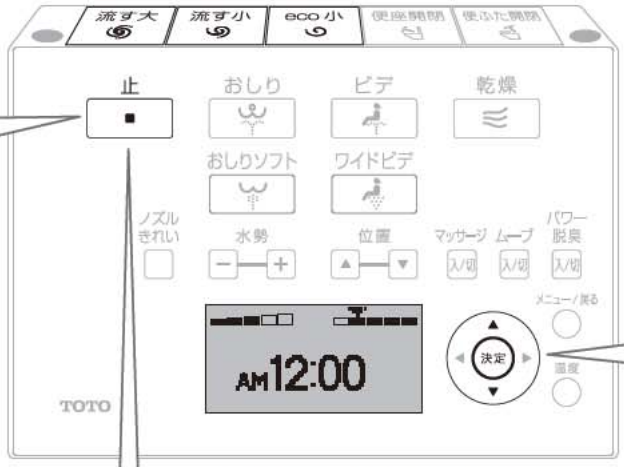


❹ 止 ■ 10秒以上押す

施工者モード 1/2
1. 便器洗浄モード
2. 本体　連立設定確認
▲▼で選ぶ⇒[決定]押す

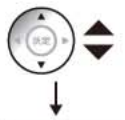
決定

便器洗浄モード 1/10
1. 便器洗浄モード1
2. 便器洗浄モード2
▲▼で選ぶ⇒[決定]押す



※機種によってデザインなどが異なります。

❺



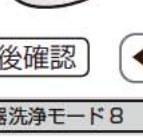
便器洗浄モード 8/10
7. 便器洗浄モード7
8. 便器洗浄モード8
▲▼で選ぶ⇒[決定]押す

選択

決定

便器洗浄モード8
に設定しました

ピッ



決定後確認　◀表示

8. 便器洗浄モード8

❻ 止 ■ → 設定完了

設定完了後、▶P.33 ❽へ

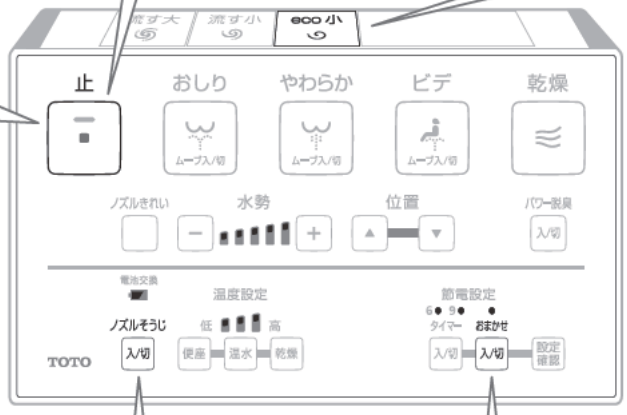
ウォシュレット S(品番:TCF6*)の場合

❸ ウォシュレット本体の電源プラグを差し込んだことを確認し、モード設定をする

❹ 止 10秒以上押す
↓
リモコンのランプが全点滅します。

❺ eco小 5秒以上押す
↓
ピーッ、ピーッ
本体表示部 <便座> 2回点滅

❼ 止 押す → 設定完了



※機種によってデザインなどが異なります。

❻ おまかせ 入/切 と ノズルそうじ 入/切 同時に押す
↓
電子音が鳴ると同時に本体表示部(便座)ランプが2回点滅することを確認する。
電子音とランプの点滅が上記でなかった場合は、設定が正しくできていません。❺に戻り、設定しなおしてください。

手順❺をくり返すたびにモードが切り替わる

「ピッ」 本体表示部が 全ランプ 1 回点滅	「ピーッ、ピーッ」 表示部が 2 回点滅	「ピーッ、ピーッ、ピーッ」 表示部が 3 回点滅	「ピーッ、ピーッ、ピーッ、ピーッ」 表示部が 4 回点滅
出荷時のモード	このモードに設定する		使用しません

❽ 作動確認

※連続して流すボタンを押しても作動しません。約10秒たってから、もう一度ボタンを押してください。

流す大 → 大側へ
流す小 → 小側へ
eco小 → 小側で約3秒間停止(重要) → 戻る

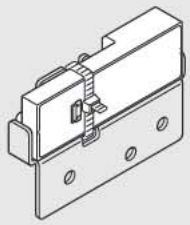
■正しく作動しない場合は、再度手順❹から設定してください

9. 前板組品

照明ありの場合 ･･･P.34 1 へ
照明なしの場合 ･･･P.34 2 へ

照明ありの場合

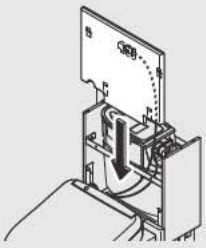
1



センサーの取り付け
▶P.34

照明あり／なし共通

2



前板組品の取り付け
▶P.34

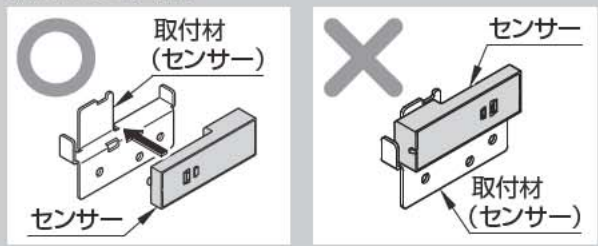
照明ありの場合

1 センサーの取り付け

※付属材セット（照明）に同梱されています。

❶ 取付向きに注意し、センサーを取付材（センサー）に設置する

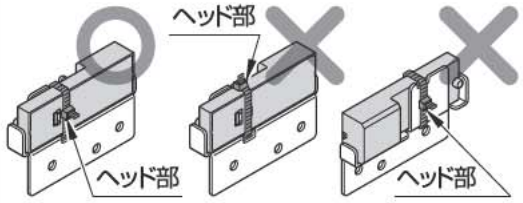
取付向き注意

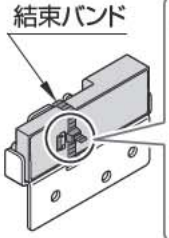


⚠注意

必ず守る

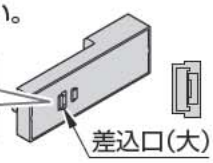
- センサーに傷を付けないように取り付ける
- 中継ハーネスと結束バンドを接触させないように取り付ける
- 結束バンドのヘッド部分の位置に注意する
  結束バンドのヘッド部分が前板と干渉し、センサーが正常に動作しないおそれがあります。





❷ センサーを結束バンドで確実に固定する
※結束バンドで固定後、さらに締め付けてください。

センサーの差込口（大）を使用するため、結束バンドで覆わないこと



❸ 余った結束バンドを切る

❹ トラスタッピンねじ 4×12（3本）

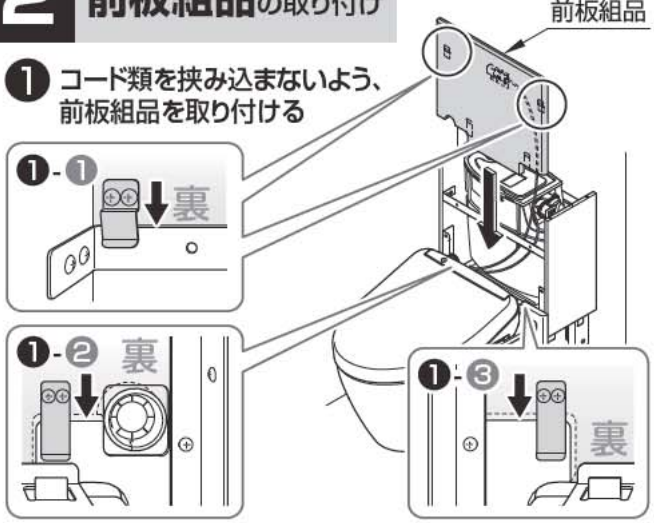
❺ 横さんの上を通し、中継ハーネスをセンサーに取り付ける

❻ 中継ハーネスをクランプに取り付ける

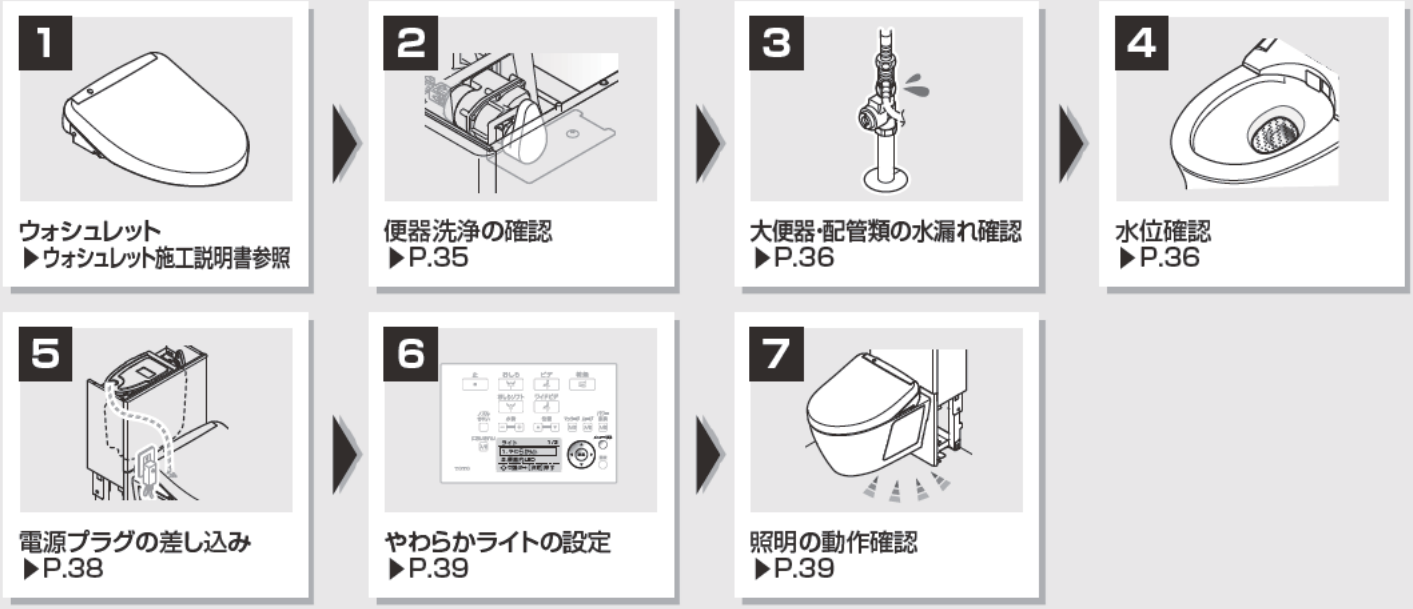
照明あり/なし共通

2 前板組品の取り付け

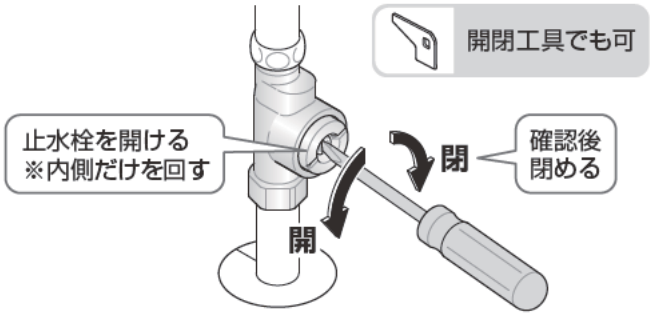
❶ コード類を挟み込まないよう、前板組品を取り付ける



10. 試運転・確認



試運転前に



1 ウォシュレット

吐水確認をする
▶ウォシュレット施工説明書参照

●試運転の前および試運転完了時は、必ず電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認してください。（ウォシュレット本体表示部の「運転」ランプが点灯します。）

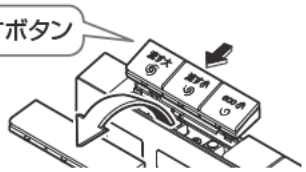
2 便器洗浄の確認

洗浄レバー

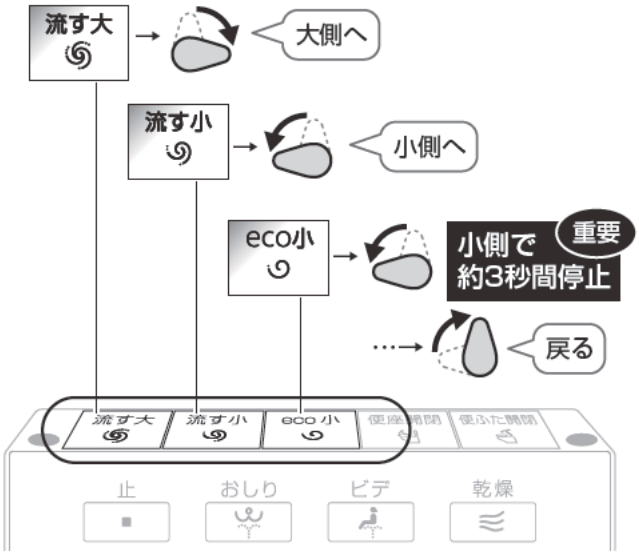
作動確認
□大・小洗浄とも正常に行われるか
□スムーズに回転するか

リモコン

流すボタンが取り付けられているか
▶流すボタン取付説明書参照



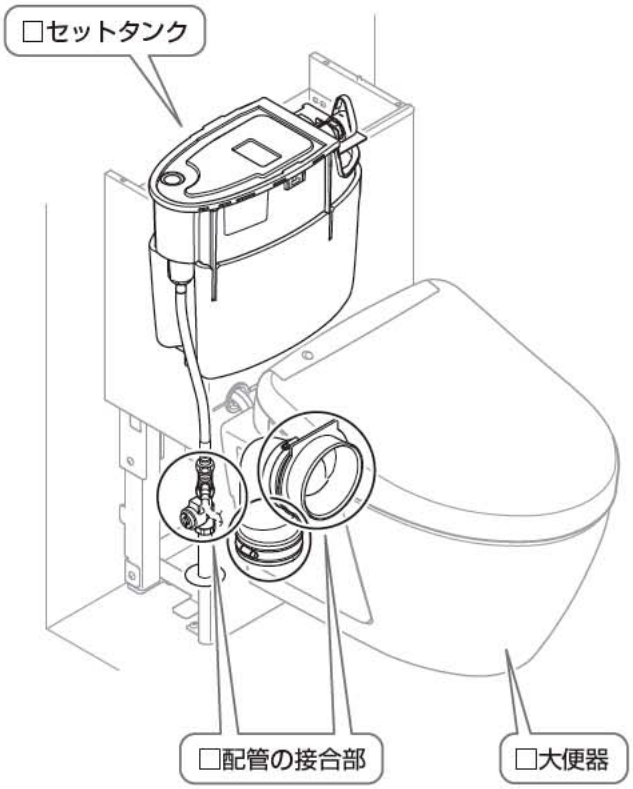
作動確認
□「大」・「小」・「eco小」のボタンを押して、それぞれの洗浄が正常に行われるか
※連続して押すと作動しません。
約10秒たってから、もう一度ボタンを押してください。



※機種によってデザインなどが異なります。

3 大便器・配管類の水漏れ確認

2～3度洗浄させて、水漏れなどがないことを確認する



4 水位確認

必ず実施してください

正常な状態
設定変更不要です。

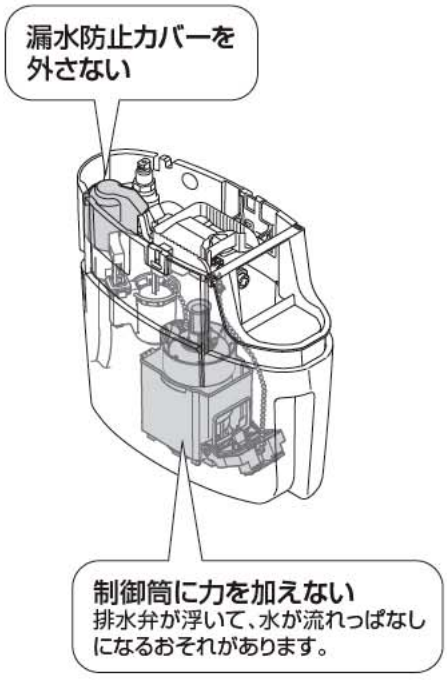
設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。

水たまり面が低い
設定変更してください。
▶P.37
「水たまり面が低い場合の対応方法」

汚物付着の原因になります。
〈水たまり面　低下の理由〉
・排水管に曲がりが多い
・通気が不十分

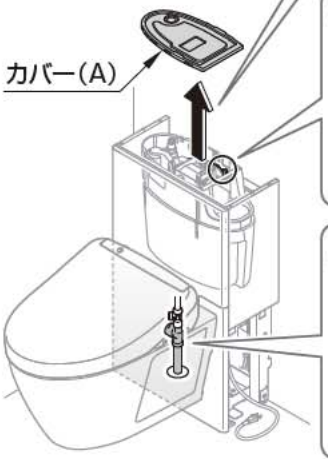
〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉
ペットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、水たまり面が上昇しない場合は正常です。

セットタンク内を調整する際のご注意



水たまり面が低い場合の対応方法

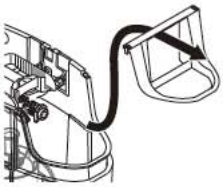
❷ カバー(A)を取り外す

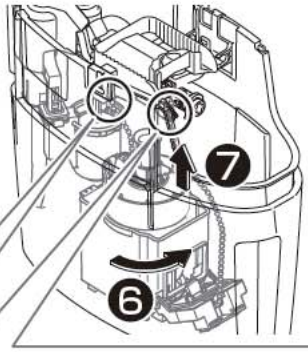


❸ 切替レバー(赤)を手前に90°回転させる

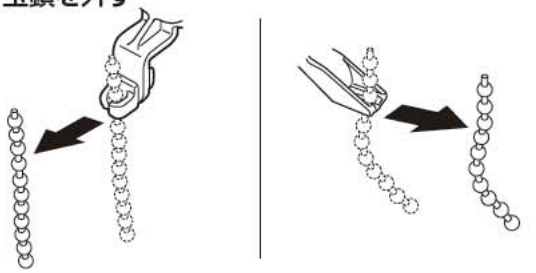
❶ 止水栓を閉める
※内側だけを回す

❹ 洗浄レバーを取り外し、カバー(B)を取り外す

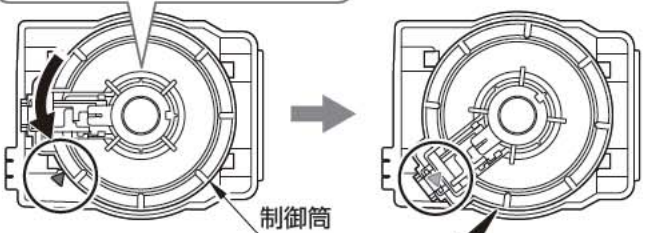




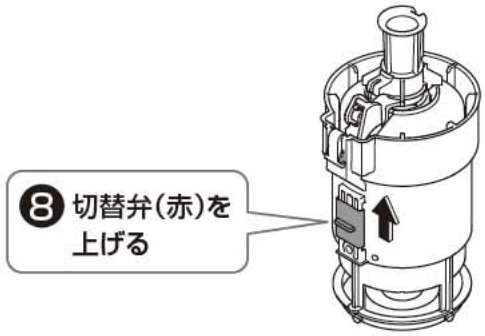
❺ 玉鎖を外す



❻ 制御筒を反時計回りに回し▲をあわせる

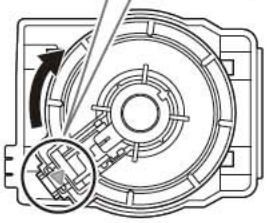


❼ セットタンクに傷を付けないよう、制御筒を外す
制御筒の取り外し時にセットタンクに傷を付けないこと

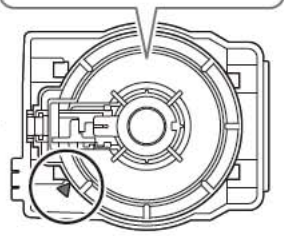


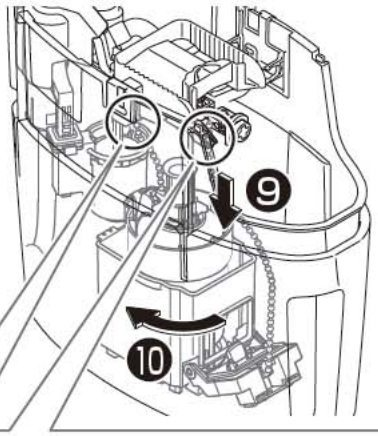
❽ 切替弁(赤)を上げる

❾ ▲をあわせて取り付ける

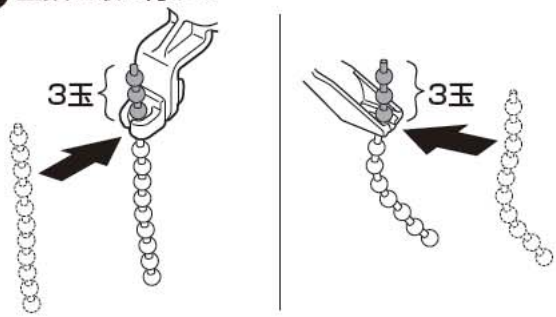


❿ 制御筒を時計回りに回す





⓫ 玉鎖を取り付ける



※正しく取り付けないと止水不良になります。

⓬ カバー(B)と洗浄レバーを取り付け、カバー(A)を元に戻す

⓭ 完了後の確認
□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□洗浄後、水たまり面の低下がないか

自治体によって洗浄水量の規制がある場合

【変更前】

大洗浄	4.8L
小洗浄	3.6L
eco小洗浄	3.4L

変更できます。

大洗浄	6L
小洗浄	4.8L
eco小洗浄	4.6L

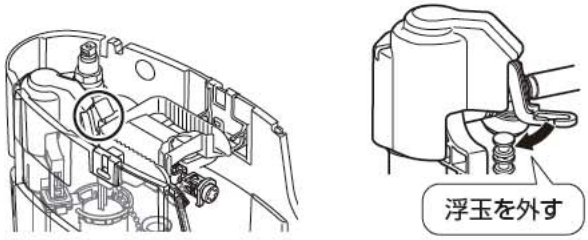
大洗浄	8L
小洗浄	7.5L
eco小洗浄	7L

大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L仕様への切替方法

❶～❸

▶P.37左 水たまり面が低い場合の対応方法 の ❶～❸を実施

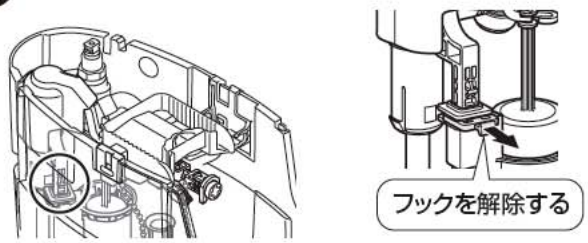
❹



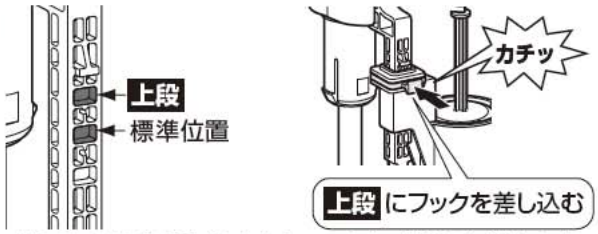
❺

※位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

❻



❼



※位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

❽ カバー(A)を元に戻す

❾ 完了後の確認

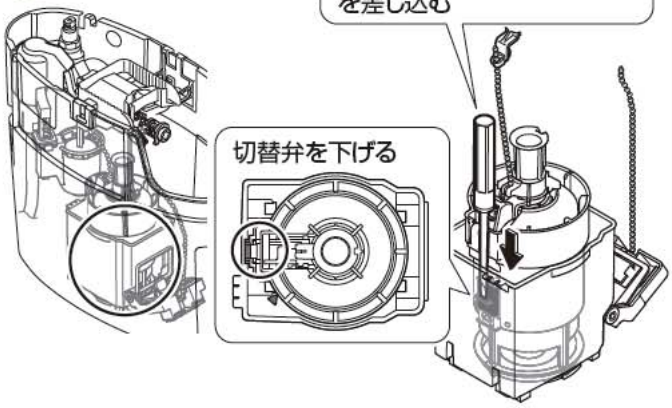
□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

大洗浄8L、小洗浄7.5L、eco小洗浄7L への切替方法

❶～❼

▶P.38左 大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L の ❶～❼を実施

❽



切替弁を下げられなかった場合

▶P.37左 水たまり面が低い場合の対応方法 の ❶～❸を実施

❾ カバー(A)を元に戻す

❿ 完了後の確認

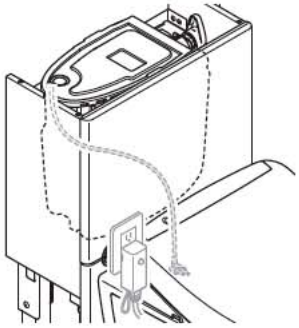
□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

寒冷地 水抜方式

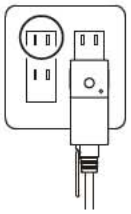
一般地/寒冷地 流動方式の場合 …P.39 6 へ

5 電源プラグの差し込み

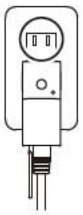
セットタンク用ヒーターの電源プラグをコンセントへ差し込む



照明ありの場合



照明なしの場合



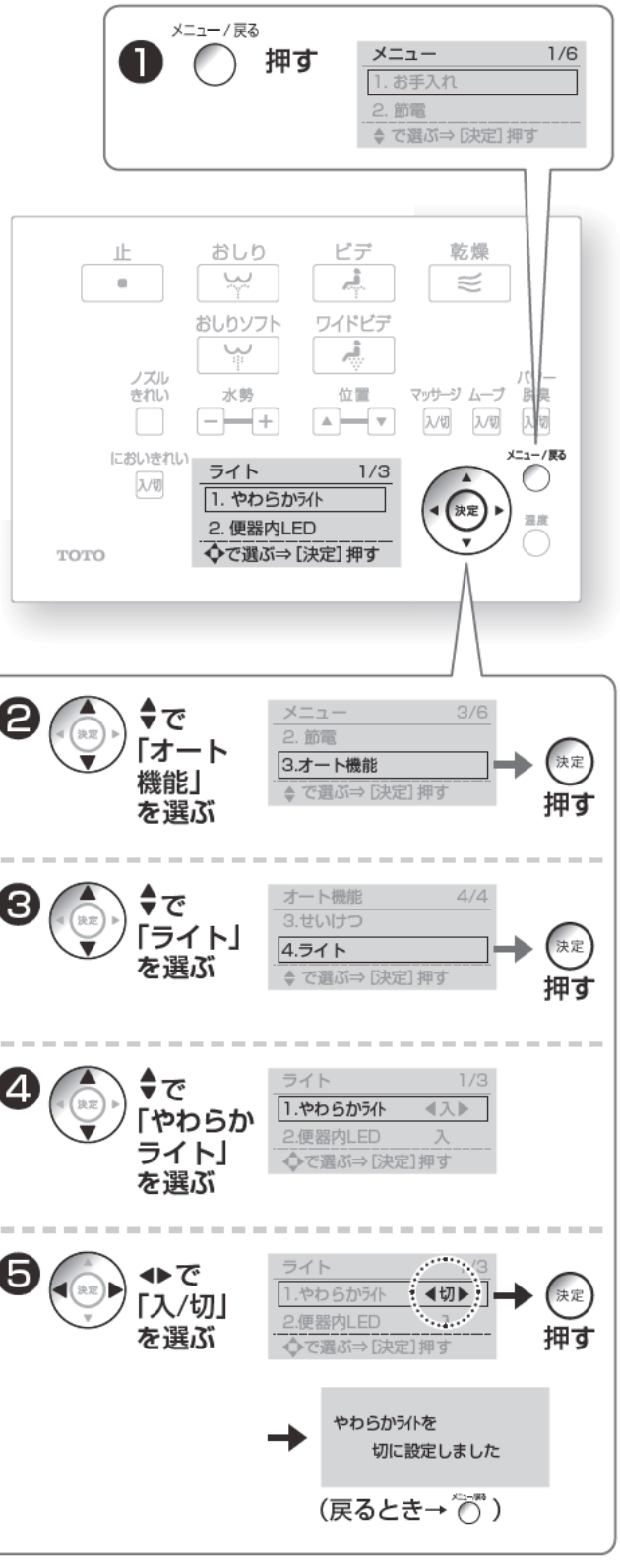
ウォシュレット アプリコット(品番:TCF4*)
やわらかライトありの場合

やわらかライトなしの場合
・・・P.39 7 へ

6 やわらかライトの設定

※ウォシュレット アプリコットのやわらかライトは入/切を選択できます。

	照明	
FD	あり(オプション品)	
ウォシュレット(やわらかライト)	入	切

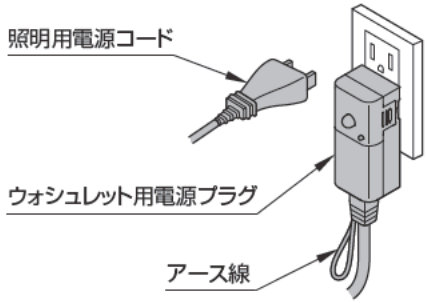


照明ありの場合

照明なしの場合
・・・P.40 「11.流量レバー」へ

7 照明の動作確認

❶ 電源コードを差し込む



❷ 点灯確認

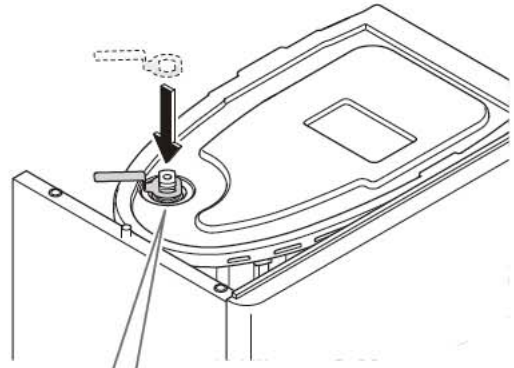
大便器に近づいて行くことで、照明が点灯することを確認してください。(確認は、トイレの外に出てトイレのドアを閉め、100秒以上経過した後に実施)

【点灯しないとき】
部材の接続を再度確認してください。
・LED照明ユニットの取り付け▶P.24
・センサーの取り付け▶P.34

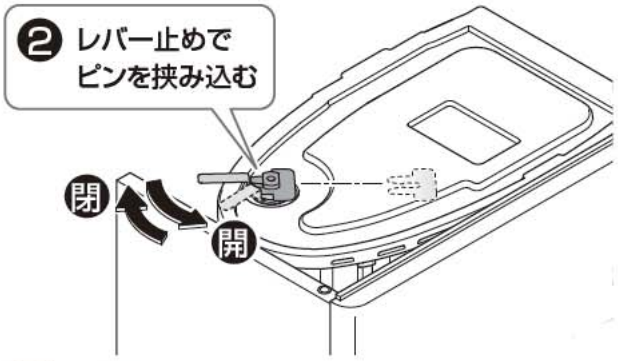
11. 流動レバー

寒冷地 流動方式の場合

一般地 / 寒冷地 水抜方式の場合
・・・P.40「12. 給水フィルターの清掃」へ



❶ 向きに注意し、上からピンに差し込む



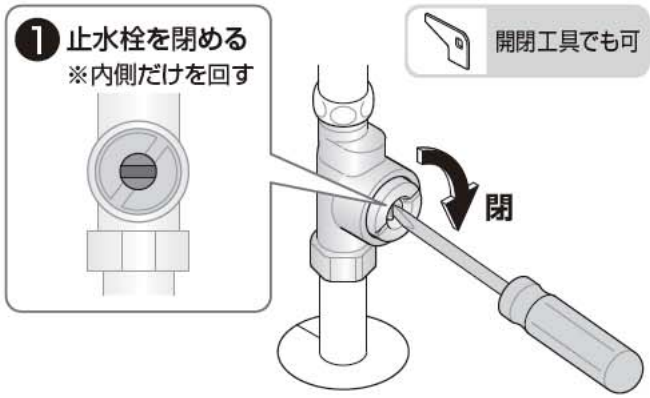
❸ 作動確認

□流動レバーを手前に回し、水を流す。
□作動確認後、流動レバーを奥壁側に回し、
閉まることを確認する。
□確認後、止水栓を閉める。

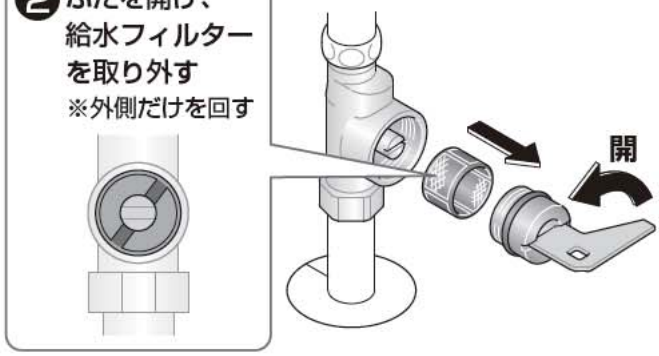
12. 給水フィルターの清掃

必ず実施してください

❶ 止水栓を閉める
※内側だけを回す

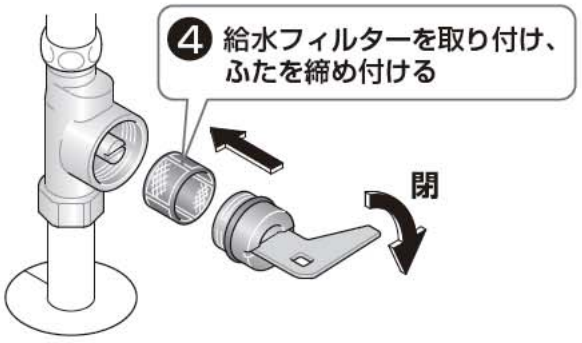


❷ ふたを開け、
給水フィルター
を取り外す
※外側だけを回す



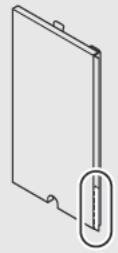
※止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください。

❸ 給水フィルターの清掃



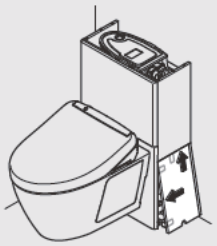
13. 点検口組品

1



目地材のカット(幅木がある場合)
▶P.41

2

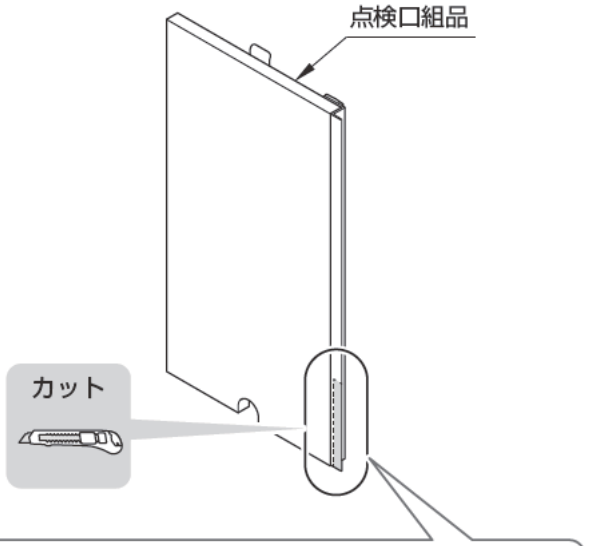


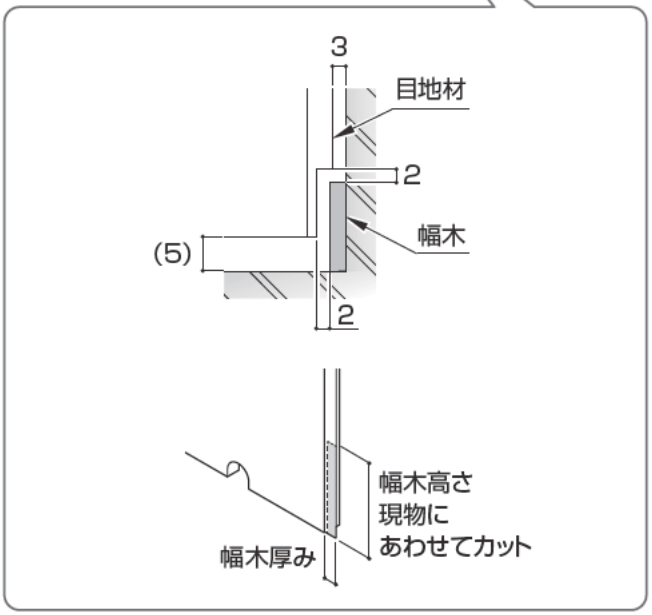
点検口組品の取り付け
▶P.41

1 目地材のカット

幅木がある場合

※幅木がない場合･･･2へ

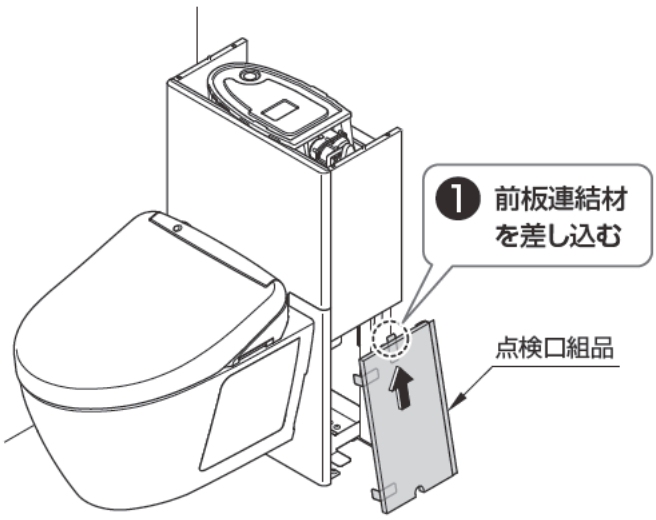




□幅木と干渉して目地材がめくれていないことを確認する
※目地材がめくれる場合はカットすること。

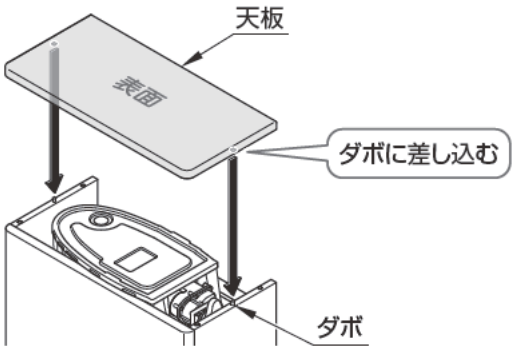
2 点検口組品の取り付け

点検口組品をコアキャビネット組品に取り付ける



14. 天板

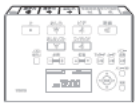
1 天板の取り付け



15. リモコン

❶ リモコンを取り付ける
▶ウォシュレット施工説明書参照

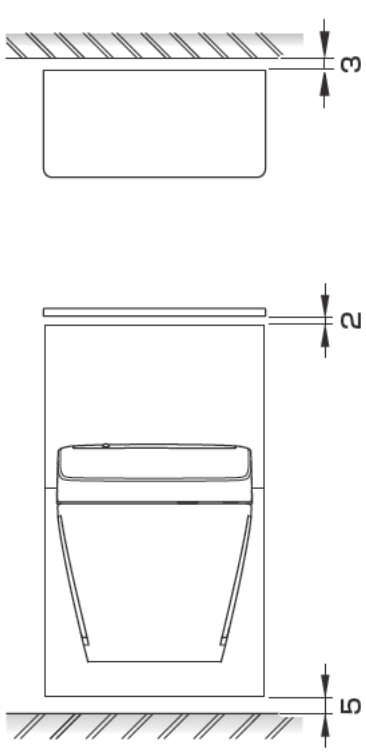
❷ リモコンの作動確認
▶P.35 2「便器洗浄の確認」リモコン 参照

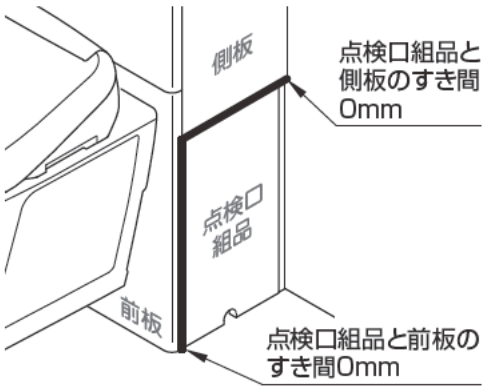


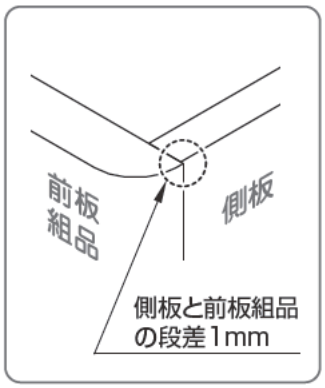
※機種によってデザインなどが異なります。

16. 仕上げ

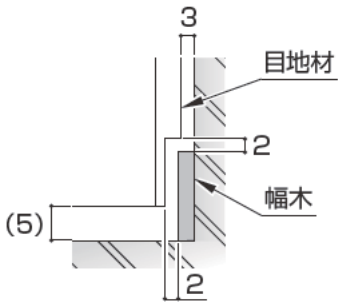
仕上げ状態（目安）

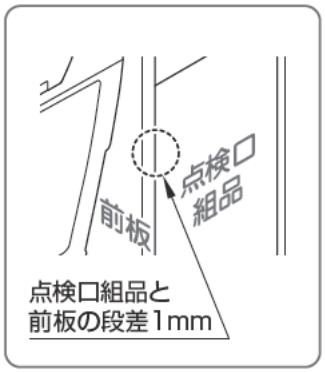






幅木がある場合



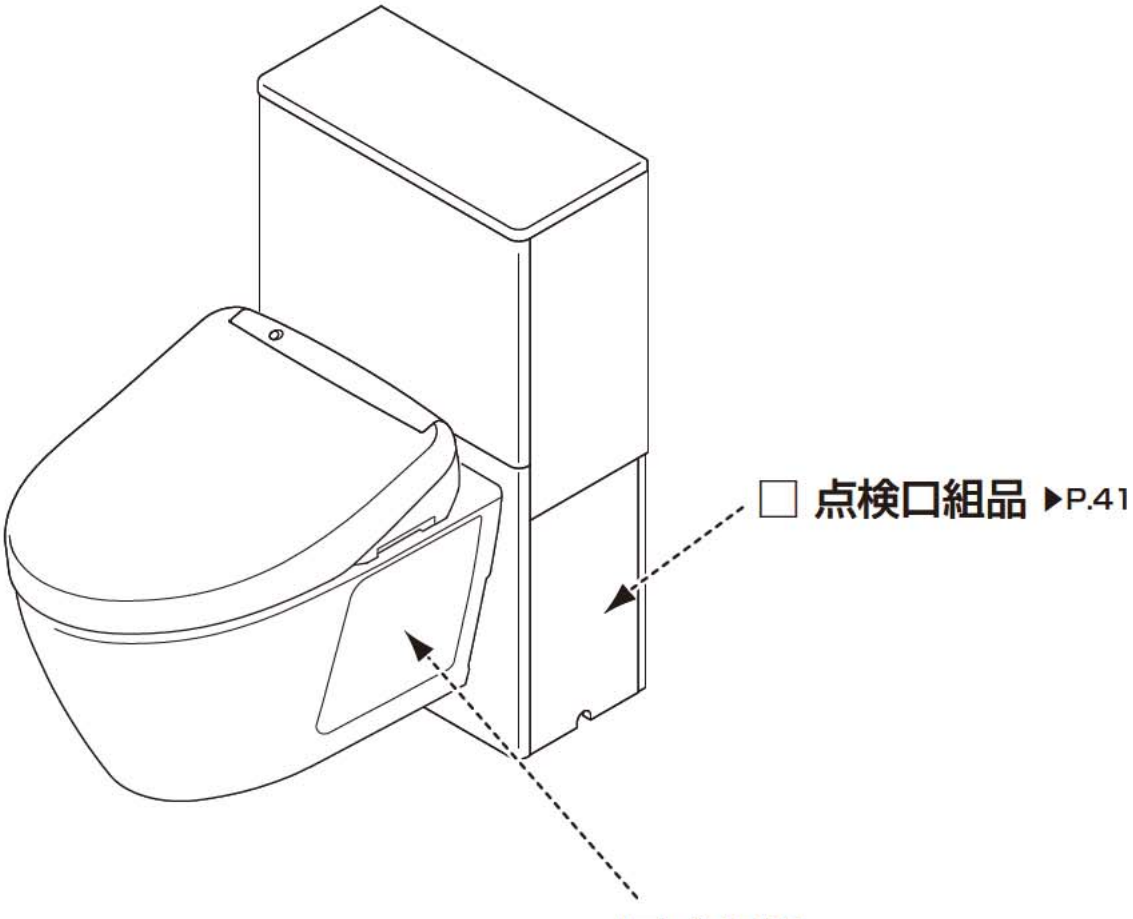


MEMO

引渡し前の点検

お引渡し前に、必ず確認してください。

- □ 大便器、配管類から水漏れなどありませんか？ ▶P.36
- □ フィルター付止水栓のフィルターは清掃しましたか？ ▶P.40
- □ 照明は正しく動作していますか？ ▶P.39(照明ありの場合)
- □ 陶器表面に傷などがありませんか？
- □ 以下の箇所にゆるみ・ガタはありませんか？



工事店様へ

このたびはFDを施工いただき、ありがとうございました。